

平成24年度

# 事業報告書



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

高田短期大学、高田高等学校、高田中学校

平成24年4月1日～平成25年3月31日まで

1. 法人の概要

**建学の精神** .....2  
**教育方針**  
 (1)設置する学校、定員及び現員  
 (2)役員氏名 .....3  
 (3)教職員数及び組織構成図 .....3～4  
 (4)校舎敷地及び建物等の概要 .....5  
 (5)学生・生徒志願者数推移表 .....6  
 (6)学生・生徒在籍者数推移表 .....7  
 (7)学生・生徒進路状況等 .....8

2. 事業実績の概要

—法人— .....8～15  
 (1)教職員研修  
 (2)教職員の福利厚生事業の充実  
 (3)教職員の表彰  
 (4)安全管理の取り組み  
 (5)理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況及び監査法人監査報告  
 (6)教職員の異動状況

3. 教育研究活動の実績

—高田短期大学— .....16～38  
 〈短大全体〉  
 (1)「キャリア育成学科」の開設に向けて  
 (2)オープンキャンパス実施結果  
 (3)進学相談会の実施結果  
 (4)新入生宿泊研修  
 (5)学生自治会主催イベント  
 (6)生活講座・健康講座  
 (7)奨学金制度について  
 (8)「高短キャンパスネット」の活用  
 (9)高大連携の推進  
 .....  
 〈大学全体〉  
 (1)高田短期大学公開講座  
 (2)教員免許状更新講習の開催  
 (3)Mie 保育士人材バンク「takada-jc」  
 (4)みえアカデミックセミナー2012 ～心豊かな人生へのアクセス～  
 (5)大学サロンみえ  
 .....  
 〈子ども学科〉  
 (1)コミュニティカレッジ  
 (2)平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト  
     (地域における社会貢献事業)  
         I 親子のためのあそび広場  
         II 風と遊ぼう (子どもゆめ基金助成事業)  
 (3)潜在保育者実態に関する調査研究  
 (4)あのかつアカデミー家庭教育支援養成講座  
 (5)子ども学科年俵  
 (6)育児文化研究センターとの連携  
 .....  
 〈人間介護福祉学科〉  
 (1)開山聖人750回遠忌報恩大法会「仏教福祉シンポジウム」  
 (2)コミュニティカレッジ  
 (3)平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト  
     (学生と地域の協働企画)  
         I 地域や福祉施設との連携・協働によるレクリエーション  
             行事の企画運営  
 (4)「介護の現場」体験ツアー  
 (5)介護職のための実践キャリア・アップ講座  
 (6)人間介護福祉学科年報  
 .....

〈オフィス人材育成学科〉  
 (1)コミュニティカレッジ  
 (2)平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト  
     (学生と地域の協働企画)  
         I 学生が主体となる高田短期大学オリジナル商品開発プロジェクト  
 (3)その他  
 .....  
 〈仏教教育研究センター〉  
 (1)研究会の開催  
 (2)仏教教育研究センター講座  
     I 仏教教育研究センター公開講座  
     II 仏教基礎講座  
 (3)仏教教育研究センター蔵書の整備  
 .....  
 〈育児文化研究センター〉  
 (1)平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト  
     (地域における社会貢献事業)  
         I 育児文化室 地域開放事業「おやこひろば たかたん」  
 (2)地域啓発事業  
 (3)研究事業  
 (4)学生活動事業  
 (5)津市委託事業  
 (6)センター便り発行  
 (7)地域連携事業  
 .....  
 〈ボランティア活動支援室〉  
 (1)平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト  
     (地域における社会貢献事業)  
         I 国際活動を活かした地域まちづくり貢献活動  
         II 東日本大震災被災地復興支援プログラム  
 .....  
 〈仏教行事委員会〉  
 〈図書館〉  
 〈施設設備等の整備事業〉  
 .....  
 —高田中学校・高田高等学校— .....39～48  
 (1)キャリア教育推進事業  
 (2)部活動の推進事業  
 (3)危機管理教育の取り組み  
 (4)教職員の資質向上事業  
 (5)きめ細やかな学習指導の推進  
 (6)命の大切さを考える教育の推進事業  
 (7)国際交流事業  
 (8)自己点検・評価等推進事業  
 (9)数理コースの授業概要  
 (10)教職員海外研修事業  
 (11)人権教育研修の推進  
 (12)生徒募集の推進  
 (13)学校安全・保健計画の推進  
 〈施設設備整備実績〉

4. 財務の概要

(1)資金収支計算書の概要 .....49～52  
 (2)消費収支計算書の概要 .....53～54  
 (3)貸借対照表の概要 .....55～56  
 (4)財務比率推移表 .....57  
 (5)財産目録 .....58

# 1 法人の概要

## 建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。

## 教育方針

### <短期大学>

建学の精神をふまえ、単に専門知識・技能の教授のみならず、「自分の立場や他人の立場を理解し、人や自然と優しく交わることのできる、おおらかで柔軟な思いやりのある心」を培う教育をめざしている。

### <中・高等学校>

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信、表裏相応を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

## (1) 設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学      三重県津市一身田豊野195  
     子ども      学科  
     人間介護福祉 学科  
     オフィス人材育成学科
- ◆ 高田高等学校      三重県津市一身田町2843
- ◆ 高田中学校      三重県津市一身田町2843

### ○高田短期大学 (平成24年5月1日現在)

学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	157名	152名	309名
人間介護福祉学科	40名	80名	14名	28名	42名
オフィス人材育成学科	60名	120名	46名	64名	110名
合計	250名	500名	217名	244名	461名

### ○高田高等学校

募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
575名	1725名	642名	528名	648名	1818名

(学則定員 730名) (3ヵ年計 2190名)

### ○高田中学校

募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
200名	600名	203名	201名	198名	602名

(学則定員 240名) (3ヵ年計 720名)

## (2) 役員氏名

＜理事 定数10名 実数9名＞

(平成25年3月31日現在)

区分	氏名	現職
第1号 宗務総長	青木 眞暁	真宗高田派 宗務総長
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長
第3号 評議員	伊藤 友治 望月 演 井村 正勝 永井 玲子 志田 行弘	(有)平治煎餅 会長、(株)津銘菓 代表取締役 (宗)真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 津家庭裁判所 調停委員 三重テレビ放送(株) 代表取締役社長

＜監事 定数2名 実数2名＞

区分	氏名	現職
監事	下津 和文	下津醤油(株) 代表取締役会長
監事	紀太 允	(一社)三重県警備業協会 監事

＜評議員 定数21～25名 実数21名＞

区分	氏名	現職
第1号 宗務総長	青木 眞暁	真宗高田派 宗務総長
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長
第3号 法人職員	山崎 征子 千草 篤麿 長谷川 博 家木 稔	高田短期大学 子ども学科長 高田短期大学 人間介護福祉学科長 高田中・高等学校 副校長 高田中・高等学校 教頭
第4号 功労者	望月 演 井村 正勝 岩崎 克彦 柘植 宗隆	(宗)真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ(株) シニア・フェロー 医療法人思源会 常務理事 元高田高等学校非常勤講師
第5号 卒業生	前畑みち代 落合 壽 松田 英明 倉田 栄治	高田短期大学 育児文化研究センター客員研究員 元津市議会議員 三重中セキ販売(株) 代表取締役社長 (株)津ドライビングスクール 代表取締役社長
第6号 本山総務	藤澤 眞純	(宗)真宗高田派総務
第7号 学識経験者	伊藤 友治 坪井 俊輔 永井 玲子 志田 行弘	(有)平治煎餅 会長、(株)津銘菓 代表取締役 弁護士 坪井法律事務所 津家庭裁判所 調停委員 三重テレビ放送(株) 代表取締役社長

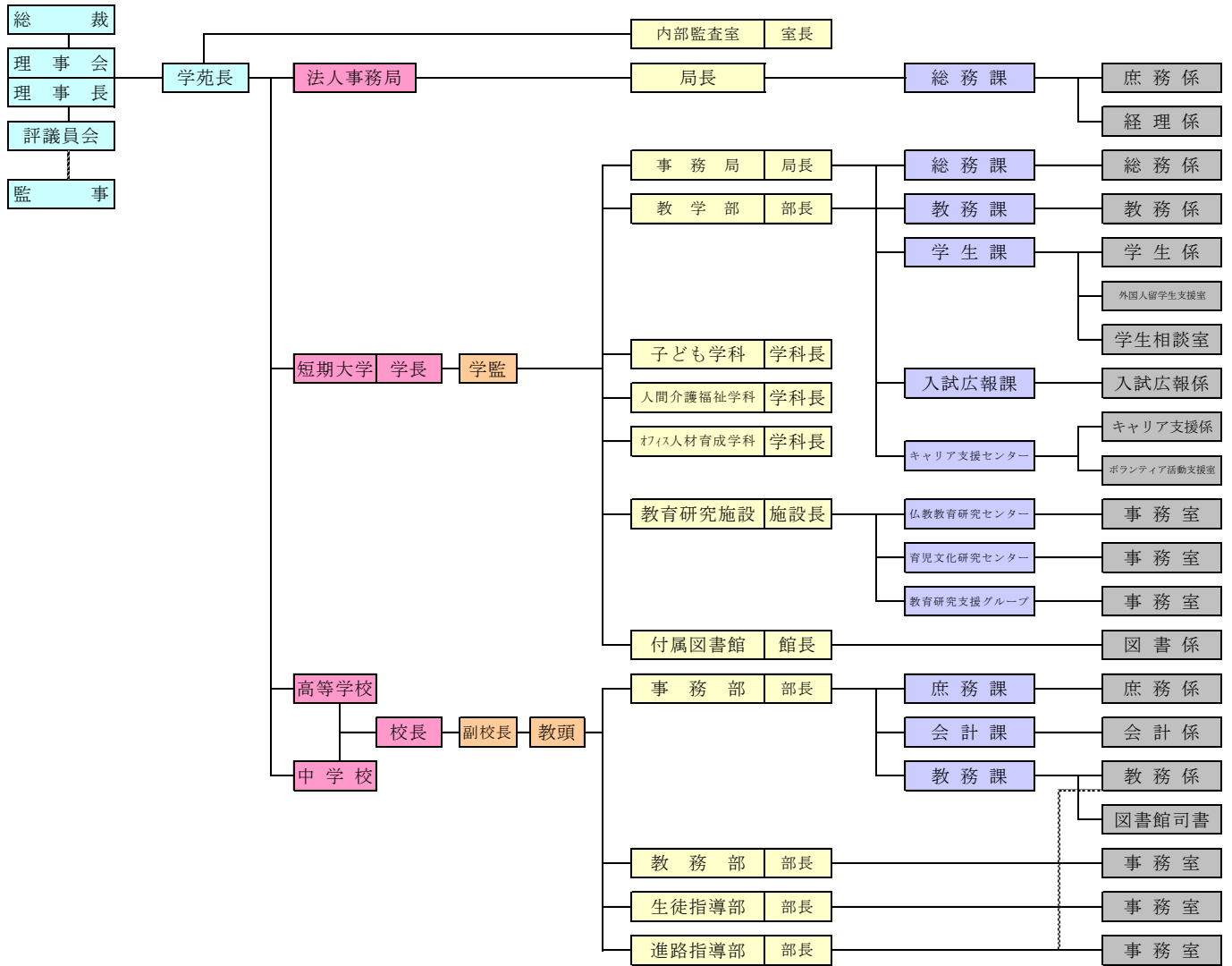
## (3) 教職員数

(平成24年5月1日現在)

	教 員		職 員		合 計	
	本 務	兼 務 (嘱託・非常勤等)	本 務	兼 務 (嘱託・非常勤等)		
本 部	—	—	7名	0名	7名	
短期大学	子 ども 学 科	14名	31名	10名	9名	64名
	人 間 介 護 福 祉 学 科	7名	12名	2名	0名	21名
	オ フィ ス 人 材 育 成 学 科	6名	19名	5名	2名	32名
高 等 学 校	97名	34名	10名	6名	147名	
中 学 校	30名	6名	3名	1名	40名	
合 計	154名	102名	37名	18名	311名	

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む  
又、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

# 高田学苑組織構成図



#### (4) 校舎敷地及び建物等の概要

##### 校舎敷地

区 分		専用面積(㎡)	計面積(㎡)	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
計		18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	43,441	43,441	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	4,167	4,167	〃	〃	内 借用1,663㎡
計		78,543	78,543			
合 計		97,534	97,534			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

##### 校舎等建物<短期大学の部>

校舎等建物面積等				
区 分	面積(㎡)	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部 室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

##### 校舎等建物 <法人本部、高等学校・中学校の部>

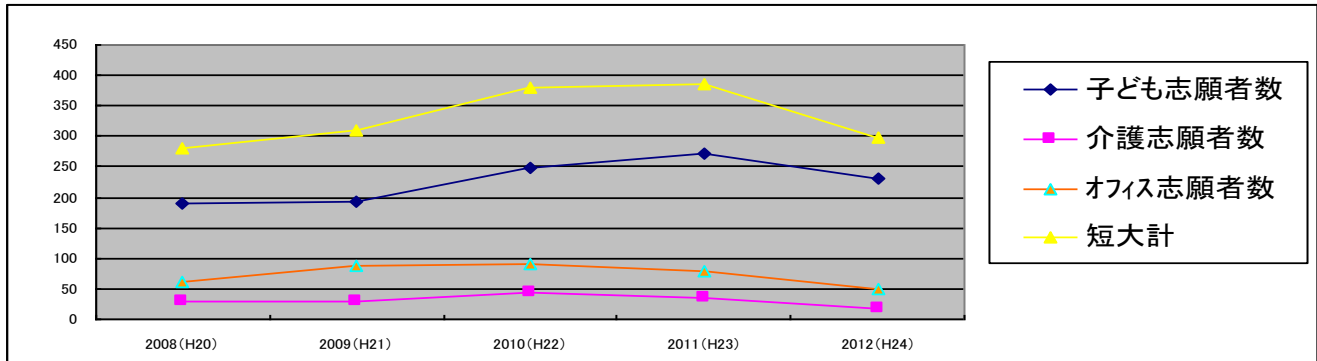
校舎等建物面積等				
区 分	面積(㎡)	室数	構 造	権利の所属
本 館	4,721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2,722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2,155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2,609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3,125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4,113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3,819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1,889.03	12	鉄筋鉄骨コンクリート造切妻屋根3階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	26,892.41	220		
合 計	39,650.03	354		

備考(その他) 機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡

(5) 学生・生徒志願者数推移表 (平成24年5月1日現在)

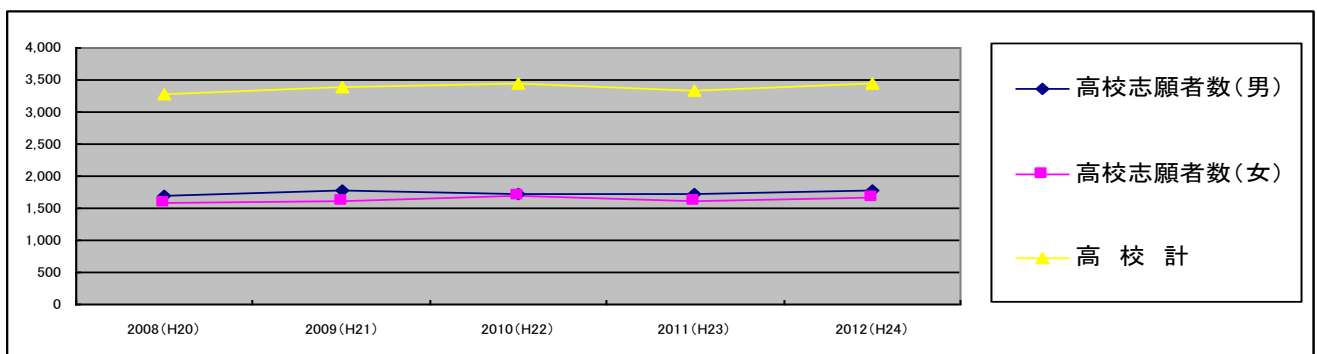
(単位:人)

高田短期大学	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)
子ども志願者数	190	192	247	271	231
介護志願者数	28	29	43	36	17
オフィス志願者数	62	88	91	78	49
短大計	280	309	381	385	297



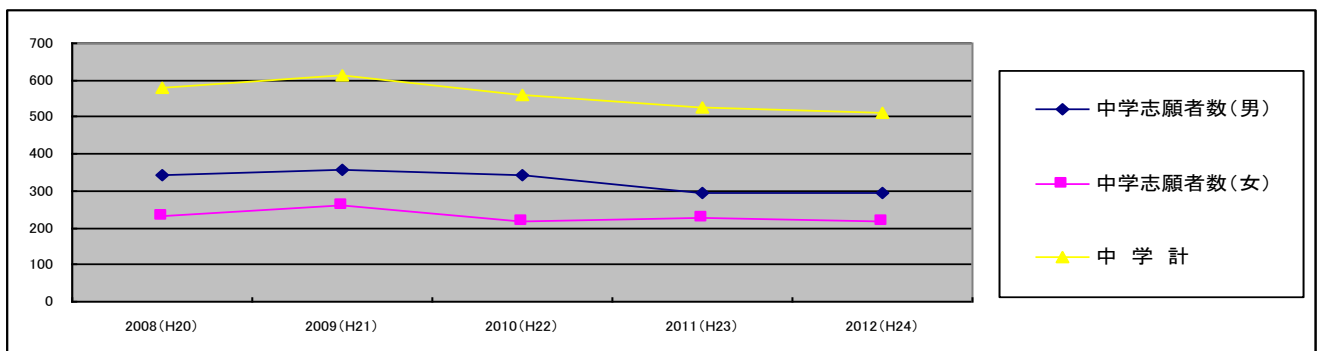
(単位:人)

高田高等学校	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)
高校志願者数(男)	1,684	1,774	1,729	1,733	1,774
高校志願者数(女)	1,584	1,612	1,706	1,613	1,676
高校計	3,268	3,386	3,435	3,346	3,450



(単位:人)

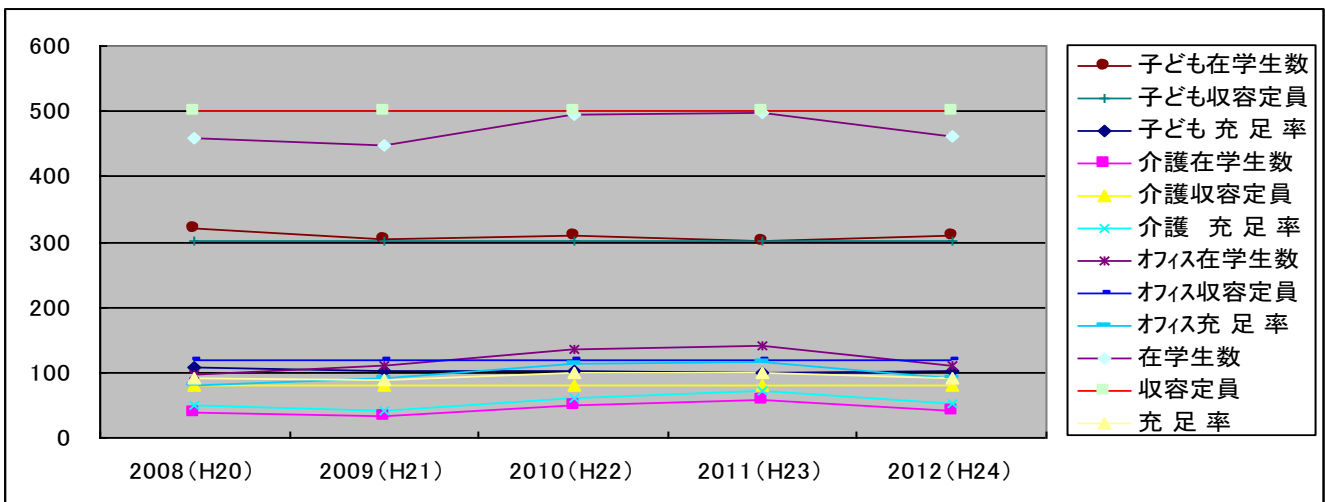
高田中学校	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)
中学志願者数(男)	344	355	341	296	295
中学志願者数(女)	234	260	218	228	217
中学計	578	615	559	524	512



(6) 学生・生徒在籍者数推移表(平成24年5月1日現在)

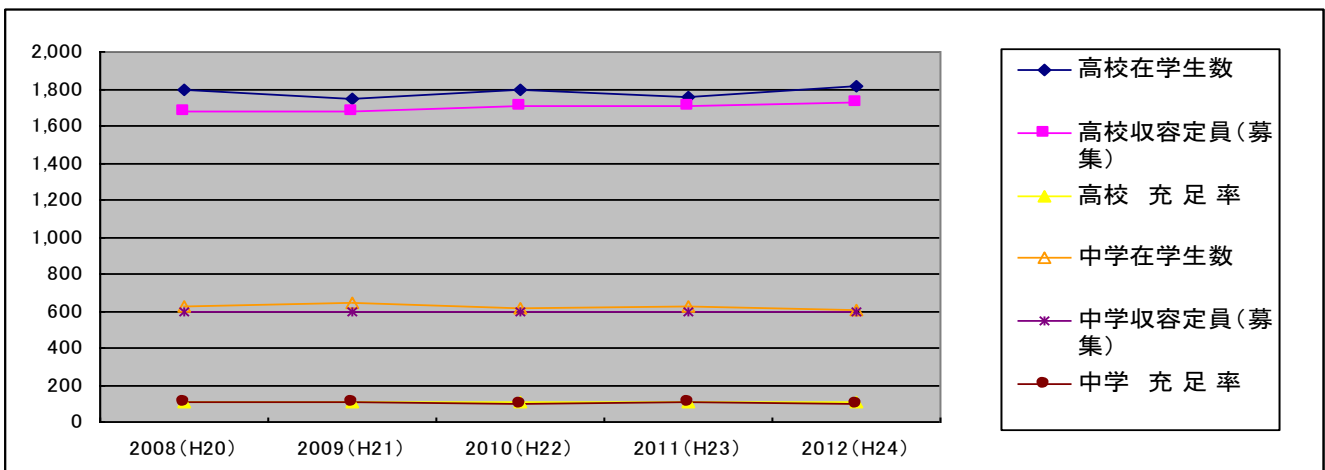
(単位:人・%)

区分	項目	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)
子ども学科	子ども在籍学生数	322	303	309	300	309
	子ども収容定員	300	300	300	300	300
	子ども充足率	107	101	103	100	103
人間介護福祉学科	介護在籍学生数	40	33	49	57	42
	介護収容定員	80	80	80	80	80
	介護充足率	50	41	61	71	53
オフィス人材育成学科	オフィス在籍学生数	97	111	136	140	110
	オフィス収容定員	120	120	120	120	120
	オフィス充足率	81	93	113	117	92
短大計	在籍学生数	459	447	494	497	461
	収容定員	500	500	500	500	500
	充足率	92	89	99	99	92



(単位:人・%)

区分	項目	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)
高田高等学校	高校在籍学生数	1,796	1,750	1,795	1,759	1,818
	高校収容定員(募集)	1,680	1,680	1,710	1,710	1,725
	高校充足率	107	104	105	103	105
高田中学校	中学在籍学生数	622	640	613	620	602
	中学収容定員(募集)	600	600	600	600	600
	中学充足率	104	107	102	103	100
中高計	在籍学生数	2,418	2,390	2,408	2,379	2,420
	収容定員	2,280	2,280	2,310	2,310	2,325
	充足率	106	105	104	103	104





## (7)平成24年度学生・生徒進路状況等

### 短期大学卒業生・進学者・就職者数

区分	子ども学科	人間介護福祉学科	オフィス人材育成学科	合計	摘要
卒業生	150名	27名	61名	238名	
就職希望者	149名	23名	54名	226名	
就職決定者	149名	23名	52名	224名	
未内定者	0名	0名	2名	2名	
進学者	0名	4名	5名	9名	四大・専門等
その他	1名	0名	2名	3名	家事従事等

### 高等学校卒業生数

		男	女	計
三年制	I類	96	108	204
	II類	130	96	226
六年制		136	81	217
合計		362	285	647

### 高等学校進学合格者述べ数(既卒者含む)

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制大学	国立	1	0	20	2	23	80	21	101	124
	公立	0	0	4	0	4	19	4	23	27
	私立	146	10	299	48	503	316	94	410	913
文部科学省所管外		0	0	3	0	3	1	2	3	6
短大	公立	6	0	5	0	11	0	0	0	11
	私立	46	0	12	0	58	0	0	0	58
国公立各種・専門学校		2	0	5	2	9	0	0	0	9
私立各種・専門学校		31	0	14	2	47	0	0	0	47
海外専門学校		1	0	0	0	1	0	0	0	1
就職		6	0	4	0	10	0	0	0	10

詳細に関しては各設置校のホームページをご覧ください。

## 2 事業実績の概要

### 法人

#### 1) 教職員研修

本年度も夏期休暇を利用して、教職員研修を開催しました。本年度は平成24年8月20日（金）に高田高等学校本館の講堂において、教職員や保護者を含め約190名の参加者を迎え盛大に開催されました。

第1部はアトリエエム株式会社代表取締役三木啓子氏による「ハラスメント防止セミナー」が行われました。民間企業、男女共同参画センター勤務などの経歴を生かして、数多くのセミナーで講師を務める三木氏に現在社会問題になっている職場でのハラスメント行為について、具体例を交えて分かりやすく講演をして頂きました。

第2部は鈴鹿厚生病院精神神経科医長金原伸一氏を講師に迎え、「教育と医療の接点 ―精神科医の立場から」と題し、現役の精神科医である金原氏に教育現場における精神疾患の問題について講演を行って頂きました。高田学苑では、教職員にとって身近で関心のある教育及び雇用問題について理解と関心を深める為に、今後も引き続きこのような教職員研修を行っていきます。



第1部の様子



第2部の様子

#### 2) 教職員の福利厚生事業の充実

昨年度より夏期休暇中に実施をしている健康診断を本年度も8月2日（木）、3日（金）、6日（月）の3日間で開催しました。

検査項目については学校保健法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた項目を遵守し、教職員約200名が受診しました。

検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立っています。また、この結果をもとに高田学苑の産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいております。

これに加え、高田学苑では、がんが疾病による死亡の最大の原因となっていることから、がん対策の一層の充実を図る為、10月23日（火）・24日（水）・25日（木）の3日間にわたり乳がん、腹部エコー及び前立腺がんなどの任意検診を費用の半額を補助する形で行いました。



#### 3) 教職員の表彰

（高田学苑特別表彰） 平成24年11月 2日（金）

○中・高等学校 副校長 1名

昭和49年に高田中・高等学校の非常勤講師に就任して以来、38年の永きにわたり本学苑の建学の精神にの

つとり、学苑の発展のため献身的な努力を重ねられた功績により平成24年10月6日（土）に三重県私学総連合会より優良教職員表彰を受賞されました。そして、その栄誉をたたえ高田学苑長より平成24年度特別表彰を受賞されました。

○中・高等学校 教諭 1名

高田中・高等学校の常勤講師に就任して以来、本学苑の建学の精神にのっとり、学校教育における教育実践等に顕著な成果をあげた実績により平成24年1月30日（月）に文部科学大臣より優秀教職員表彰を受賞されました。そして、その栄誉をたたえ高田学苑長より平成24年度特別表彰を受賞されました。

**(永年勤続表彰)**

○短期大学 平成24年11月12日（月）

計2名

15年勤続 1名

10年勤続 1名

○中・高等学校 平成24年11月 2日（金）

計20名

40年勤続 1名

35年勤続 2名

30年勤続 3名

25年勤続 6名

20年勤続 1名

15年勤続 4名

10年勤続 3名



**4) 安全管理の取り組み**

**<短大・中高>**

◇AED（自動対外式除細動器）設置（7台）

【短大】

1号館 1階正面玄関

【中高】

本館 1階正面玄関（地域住民への対応）

4号館 1階保健室

第1体育館 2階体育教官室

西グラウンド管理棟1 2階管理室

西グラウンド管理棟2 2階管理室

西グラウンド厩舎棟 1階管理室前（外部）



## ◇地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと地域住民の皆様方が災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。

中等学校の避難倉庫

## ◇ 緊急地震速報受信システムの導入



平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムの導入しました。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、大きな揺れが到達する前に、校内に一斉放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。



このシステムの導入により、既に運用している「地震・災害マニュアル」も、このシステムに対応したものに変更しました。

## ◇ 防災ガイドの作成

東海地方では近い将来東海・東南海連動型地震が発生することが危惧されています。東日本大震災の教訓を生かし、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるように災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを短期大学・中高等学校別に作成しました。この防災ガイドは既に全校生徒及び全教職員に配布しました。学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、今後災害発生時の対応に役立ててくれるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。

学校法人 高田学苑  
高田中・高等学校 防災ガイド

名前	
住所	
緊急連絡先	TEL: _____ Mail: _____
生年月日	
血液型	
アレルギー その他	

### 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

<p><b>地震発生</b> 大きな揺れは長く1分程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着け</li> <li>○身を守れ</li> </ul>	<p><b>3分</b> みんなの命を守る 火災発生を防ぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漏電・ガス漏れに注意</li> <li>○周辺への声かけ</li> <li>○津波から避難</li> </ul>	<p><b>10分~数時間</b> 協力して消火、搬送、救出活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○余震に注意</li> <li>○みんなで助け合おう</li> </ul>
<p><b>1~2分</b> 揺れがおさまったら...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○非常出口の確認</li> <li>○非常持出品</li> <li>○家族・知人の安全確認</li> <li>○靴を履け</li> <li>○欠が出たら早く消火</li> </ul>	<p><b>5分</b> ラジオなどで正しい情報を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デマに感わされるな</li> <li>○車で逃げるな</li> <li>○防災機関の情報確認</li> </ul>	<p><b>~3日</b> 避難生活は不自由なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水・食糧は備蓄でまかなう</li> <li>○災害情報などの収集</li> <li>○壊れかけた家に入るな</li> <li>○避難所では協力しよう</li> </ul>

### 地震発生時に屋外にいる場合

- 電車やバスに乗っていたら**
  1. つり革や手すりにしっかりとつかまりましょう。
  2. あわてて降りたりせずに、乗務員などの指示に従って避難しましょう。
- 海岸や河口付近にいたら**
  1. 地震を感じたら津波に備え、すぐに高台などに避難しましょう。
  2. 正しい情報をラジオ、広報車などから把握しましょう。
- 車に乗っていたら**
  1. 徐々にスピードを落とし、道路の左側に車を止めましょう。
  2. カーラジオで状況を把握しましょう。
  3. 車から離れる時は、キーを付けたまま、ドアをロックせずに避難しましょう。
- 街中にいたら**
  1. 落下物から身を守るため、カバンや衣類等で頭を覆いましょう。
  2. ガラス、ブロック、電線、電柱から離れましょう。
- エレベーターにいたら**
  1. 階数のボタンをすべて押しましょう。
  2. 感電の恐れがあるため、天井部分からは逃げようとはしないでください。
  3. あわてず非常ボタンを押し、指示を待ちましょう。

### 津波に対する心得

**次の場合は、すぐに高台などに避難しましょう**

- 強い地震を感じたとき
- 弱い地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れを感じたとき
- 地震を感じなくても「津波警報・注意報」などが発表されたとき

- ◆津波は河川をさかのぼるので、川から離れて避難しましょう。
- ◆津波は何度も襲ってくるので、避難したら津波警報・注意報などが解除されるまで家には戻らず、海岸にも近づかないでおきましょう。
- ◆正しい情報をテレビ、ラジオ、広報車、インターネットなどから把握しましょう。

### 非常持出し品・備蓄品の確認

大規模地震などの災害に対しては、**3日間は自分で生き延びる事を考えよう**とされています。そんな時に備えて非常持出し品・備蓄品を準備しておきましょう。

<b>非常持出し品</b> <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 10円玉 <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> マッチライター <input type="checkbox"/> 軍用具 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> ティッシュ <input type="checkbox"/> 懐子 <input type="checkbox"/> ナイフ <input type="checkbox"/> 選帳カード <input type="checkbox"/> ローブ	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> カイロ <input type="checkbox"/> こみ袋 <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> ドライシャンプー <input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 救急医薬品 <input type="checkbox"/> 厚底の靴 <input type="checkbox"/> 缶切り <input type="checkbox"/> 身分証	<input type="checkbox"/> 包装用のラップ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 衣類・下着 <input type="checkbox"/> 寝具類 <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> タオル・毛布 <input type="checkbox"/> ボディソープ <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ など
<b>備蓄品</b> <input type="checkbox"/> 水1人1日3L <input type="checkbox"/> ガスボンベ <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> ビニールシート <input type="checkbox"/> バケツ	<input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> ボリタンク <input type="checkbox"/> パール <input type="checkbox"/> その他アウトドア用品	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 銅

### 高田中・高等学校 災害避難マップ

※高田中高等学校の第1体育館(全館)および第2体育館(1・2階)は、津地域避難場所に指定されています。詳しくは、津市危機管理課 防災室 (TEL:059-229-3104)まで。

中・高等学校の防災ガイド（短大も同形式で作成）

## <短大>

地震等の災害に対する意識高揚を図る為、10月8（月）に防災訓練を実施しました。

訓練は文部科学省からの総合防災訓練大綱に基づき、実際さながらに校舎火災を想定し、避難誘導、非常持ち出し品の搬出、負傷者の救護等を行った後、津北消防署員の方による指導のもと、消火器の取扱や煙ハウスによる煙体験をするなど、一人ひとりの防災への動機付けが行われました。



## <中・高等学校>

◇緊急災害時避難場所開設フローチャートの作成

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田学苑においても周辺地域の避難場所としての責務に応える必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、平成23年度に「緊急災害時避難場所開設フローチャート」を作成しました。今回は事務職員を中心として、パターン別に災害時の行動指針をフローチャートにまとめました。このチャートを普段よく見る場所に掲示し、事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきます。

## 5) 理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況及び監査法人監査報告

平成24年度も高田学苑寄附行為に基づき、計3回の理事会、2回の評議員会が開催されました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。平成24年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

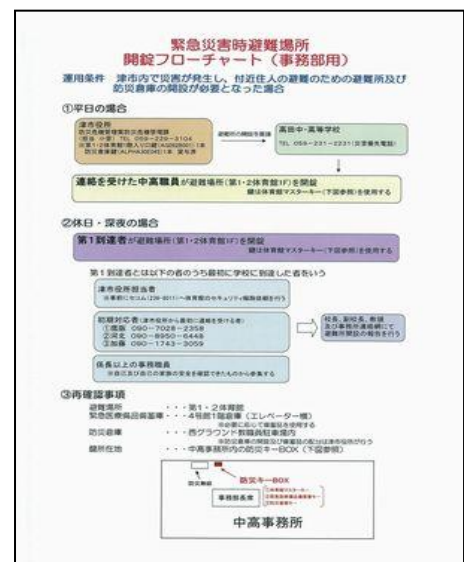
### <理事会>

平成24年5月31日（木）

【審議事項】

学校法人高田学苑寄附行為の一部

改正について



任期満了に伴う監事の選出について  
育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について  
高田高等学校授業料等生徒納付金助成規程の一部改正について  
平成23年度決算の承認について

**【諮問事項】**

任期満了に伴う評議員の選任について

平成24年11月9日（金）

**【審議事項】**

平成24年度第1回収支補正予算について  
学校法人高田学苑寄附行為の一部改正について  
学校法人高田学苑組織規程の一部改正について  
学校法人高田学苑定年規程の一部改正について  
再雇用職員及び嘱託・非常勤講師等給与規程の一部改正について  
育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について  
学校法人高田学苑経理規程の一部改正について  
学校法人高田学苑情報公開規程の一部改正について  
高田短期大学学位規程の一部改正について  
高田短期大学奨学金規程の一部改正について  
高田短期大学介護福祉就労予定者奨学金規程の一部改正について  
高田短期大学私費外国人留学生授業料等軽減措置規程の  
一部改正について  
高田高等学校授業料等生徒納付金助成規程の一部改正について

平成25年3月27日（水）

**【審議事項】**

平成24年度第2回収支補正予算について  
平成25年度収支当初予算について  
学校法人高田学苑勤務規則の一部改正について  
再雇用職員及び嘱託・非常勤講師等勤務規則の一部改正について  
育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について

**【諮問事項】**

学苑職員の任期満了に伴う評議員の選任について

**<評議員会>**

平成24年5月31日（木）

**【審議事項】**

任期満了に伴う高田学苑監事の選任について  
任期満了に伴う高田学苑理事の選任について  
平成23年度決算の承認について

平成24年11月9日（金）

**【審議事項】**

平成24年度第1回収支補正予算について  
学校法人高田学苑寄附行為の一部改正について

平成25年3月27日(水) 【審議事項】  
平成24年度第2回収支補正予算について  
平成25年度収支当初予算について

### <監事会>

平成24年5月25日(金) 【議事】  
平成23年度短期大学及び中・高等学校概要報告  
平成23年度決算審査関係  
平成23年度事業実績報告  
質疑応答及び実査

平成24年11月5日(月) 【議事】  
平成24年度短期大学及び中・高等学校概要報告  
平成24年度第1回補正予算書及び現預金状況  
平成24年度事業実績報告(中間)  
質疑応答及び実査

### <内部監査委員会>

平成24年5月22日(火) 【議事】  
平成23年度短期大学及び中・高等学校概要報告  
平成23年度事業実績報告  
平成23年度決算概要報告  
管理運営等について(質疑応答)

平成24年10月31日(水) 【議事】  
平成24年度短期大学及び中・高等学校概要報告  
平成24年度事業実績報告  
現金、預金及び有価証券等の状況  
管理運営等について(質疑応答)

### <監査法人監査> 監査法人名：五十鈴監査法人

平成24年 4月 3日(火) 現金、通帳、証書の実査  
平成24年 5月11日(金) 他 平成23年度決算監査  
平成24年 9月12日(水) 平成24年8月までの取引記録  
平成24年12月14日(金) 平成24年11月までの取引記録  
平成25年 1月 8日(火) 平成24年12月までの取引記録  
平成25年 2月20日(水) 短大部門の取引記録  
平成25年 3月14日(木) 平成25年2月までの取引記録

## 6) 教職員の異動状況

24年度に採用及び退職された教職員数の詳細は以下のとおりです。

【採用】	短期大学	准教授	1名		
		講師	1名		
		助教	2名		
		本務職員	1名		
		嘱託職員	1名		
		計	6名		
	中・高等学校	管理職（再雇用）	2名		
		講師（再雇用）	2名		
		講師嘱託	1名		
		非常勤講師	5名		
			（再雇用1名含む）		
		嘱託職員	1名		
		賃金職員	1名		
		計	12名	学苑合計	18名
【退職】	短期大学	教授	2名（内再雇用1名）		
		助教	1名		
		本務職員	2名		
		嘱託職員	3名		
		計	8名		
			中・高等学校	管理職	3名（内再雇用1名、講師2名）
教諭	7名（内再雇用5名）				
講師	1名（再雇用）				
非常勤講師	2名				
本務職員	1名				
計	14名			学苑合計	22名





### 3 教育研究活動の実績

#### 高田短期大学

##### ～時代・社会の変化に即応した学科再編への取り組み～

##### (1) 「キャリア育成学科」の開設に向けて

地域社会から求められている「人間基礎力」を身につけた人材をより強力に育成するために、平成25年度から人間介護福祉学科とオフィス人材育成学科を統合して「キャリア育成学科」を開設し、学科内に「オフィスワークコース」と「介護福祉コース」を設置します。

新学科への改編にあたり、前年度より編成に取り組んできました教育課程・開講授業科目を確定し、関係省庁・所管機関に必要とされる届出を順次行うとともに、学内規定の改正等、諸々の準備を進めました。また、新学科への入学生の確保が最重要課題のため、県内全域の高校訪問や高校生を対象とした各会場ガイダンス等の説明会を積極的に実施し、本学ホームページ、新聞や受験雑誌等各メディアを通しての広報にも努めました。



##### (2) オープンキャンパス実施結果

- 1) 日時 ①第1回 平成24年6月16日(土) 13:00～16:45  
 ②第2回 平成24年7月22日(日) 13:00～16:45

##### 2) 参加者数

学 科	コース	第1回	第2回	合 計
子 ども		198名	221名	419名
キャリア育成	オフィスワーク	51名	41名	92名
	介護福祉	16名	15名	31名
合 計		265名	277名	542名



##### 3) 実施スケジュール

13:00～13:25 全体説明会 13:30～16:45 各学科説明・体験・相談

##### (3) 進学相談会の実施結果

- 1) 日時 ①第1回 平成24年 7月7日(土) 13:00～15:00  
 ②第2回 平成24年10月6日(土) 13:00～15:00

## 2) 参加者数

学 科	コース	第1回	第2回	合 計
子 ども		48名	9名	57名
キャリア育成	オフィスワーク	11名	2名	13名
	介護福祉	3名	4名	7名
合 計		62名	15名	77名



○入試広報委員会及び入試広報課を主体とした取り組みにより、オープンキャンパス・進学相談会の参加者は前年度に比べ2割増しとなりました。平成25年度入学試験においては、学苑内の高田高校からの志願者の増加もあり、志願者数、入学者数共に前年度数を上回るかたちとなりました。

## ○平成25年度入学試験結果

学 科	コース	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
子 ども		150名	278名	277名	165名	160名
キャリア育成	オフィスワーク	100名	64名	64名	62名	57名
	介護福祉		30名	28名	25名	24名
合 計		250名	372名	369名	252名	241名

## ～総合的な学生支援体制の推進～

### (4) 新入生宿泊研修

前年度末の履修登録指導に始まる新入生オリエンテーション行事の締めくくりとして、新入生宿泊研修を実施しました。短大生としての自覚・自立心及び協調性を涵養するとともに、学生・教員相互の理解と親睦を深めることをねらいとしています。

日 時 4月24日(火)～25日(水) 1泊2日

会 場 COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース(津市白山町川口6262)

参加者 1年生及び教員全員、関係職員

日 程 <1日目>

10:00～10:30 開校式

10:30～12:00 子ども学科 講義「すてきな保育者になるために」

人間介護福祉学科 講義「人間理解のために“文化”と世代“を考える」

オフィス人材育成学科 講義「THE FUROSHIKI」

12:00～13:30 昼食

13:30～15:30 子ども学科 パターゴルフ

人間介護福祉学科 レクリエーション

グループディスカッション

オフィス人材育成学科 講義「THE FUROSHIKI」

15:30～17:30 宿泊準備等自由時間

17:30～20:00 夕食・入浴

20:00～21:30 学科別研修

21:30～22:30 就寝準備等自由時間



22:30 就寝

<2日目>

7:00~ 9:00 朝食・部屋の片付け

9:00~12:00 子ども学科 「つくって・あそんで・みせて2012」  
グループ制作・発表会

人間介護福祉学科・オフィス人材育成学科 パターゴルフ

12:00~12:20 閉会式

12:20~13:30 昼食・解散



### (5) 学生自治会主催イベント

学生生活の向上発展を目指し営まれる本学伝統の自治会活動を、教職員がきめ細かな支援に努めることにより、年間を通して活発に展開することが出来ました。今年度より学生自治会主催のイベントを増やし、新たに、新入生相談コーナー、ランチタイムコンサート、学内バーベキュー大会を催しました。

#### 1) 新入生相談コーナー

日時 4月6日(金)~4月12日(木) 12:10~13:00

場所 2号館1Fロビー前

内容 自治会の学生による短大生活や科目履修に関するアドバイスや、各クラブのブースを設け入部勧誘等を行いました。



#### 2) ランチタイムコンサート 場所 本学カフェテリア内特設ステージ

①日時 5月31日(木) 昼休み

内容 子ども学科2年生 太田智子さんによるギターの弾き語り

②日時 12月19日(水) 昼休み

内容 子ども学科2年生 福西ゼミによるハンドベル・合唱  
子ども学科1年生 「ちいあんなつみい」のピアノ演奏

#### 3) 学内バーベキュー大会

日時 7月14日(土) 場所 本学馬場跡地

内容 学生の親睦を深めるため、野外バーベキューとゲーム大会を行いました。当日は、約150名の学生・教職員が参加し、盛況の集いとなりました。



#### 4) 第47回高短祭

日時 10月26日(金)・27日(土)

内容 学生自治会執行部の周到的な準備と粘り強い取り組みは、学生・教職員の一体感に繋がり、外部からの多くの参加者の方々にも大いに楽しんでいただきました。



### 5) TJC祭 (スポーツ大会)

日時 1月19日(土) 場所 体育館

内容 卒業間近の2年生が後輩に高短の伝統を引き継ぐ節目の行事として、参加者全員が体を動かすことで真冬の寒さに挑みました。



### (6) 生活講座・健康講座

#### ・第1回

日時 5月21日(月) 14:40~16:10 場所 本学1号館4階 講堂

参加者 約190名

内容 テーマ1 生活安全講話 講師 津警察署 生活安全課・交通課、鉄道警察隊  
 テーマ2 東日本大震災ボランティア報告 報告者 学生自治会ボランティア

#### ・第2回

日時 11月5日(月) 14:40~16:10 場所 本学1号館4階 講堂

参加者 約110名

内容 臓器移植について ~いのちについて考える~

講師 三重県健康福祉部健康づくり課・財団法人三重県角膜・腎臓バンク協会

### (7) 奨学金制度について

各学生の修学環境の維持、整備のため、平成22年度より実施の人間介護福祉学科学生を対象にした高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金は1年生12名、2年生22名に、また、平成23年度より開始した子ども学科およびオフィス人材育成学科学生を対象とした高田短期大学奨学金制度では1年生3名、2年生13名に支給しました。日本学生支援機構奨学金は1年生50名、2年生77名が受給しています。その他に学外の各種奨学金の紹介、受給申請手続き等の支援にも努めました。

## ○学生満足度調査結果

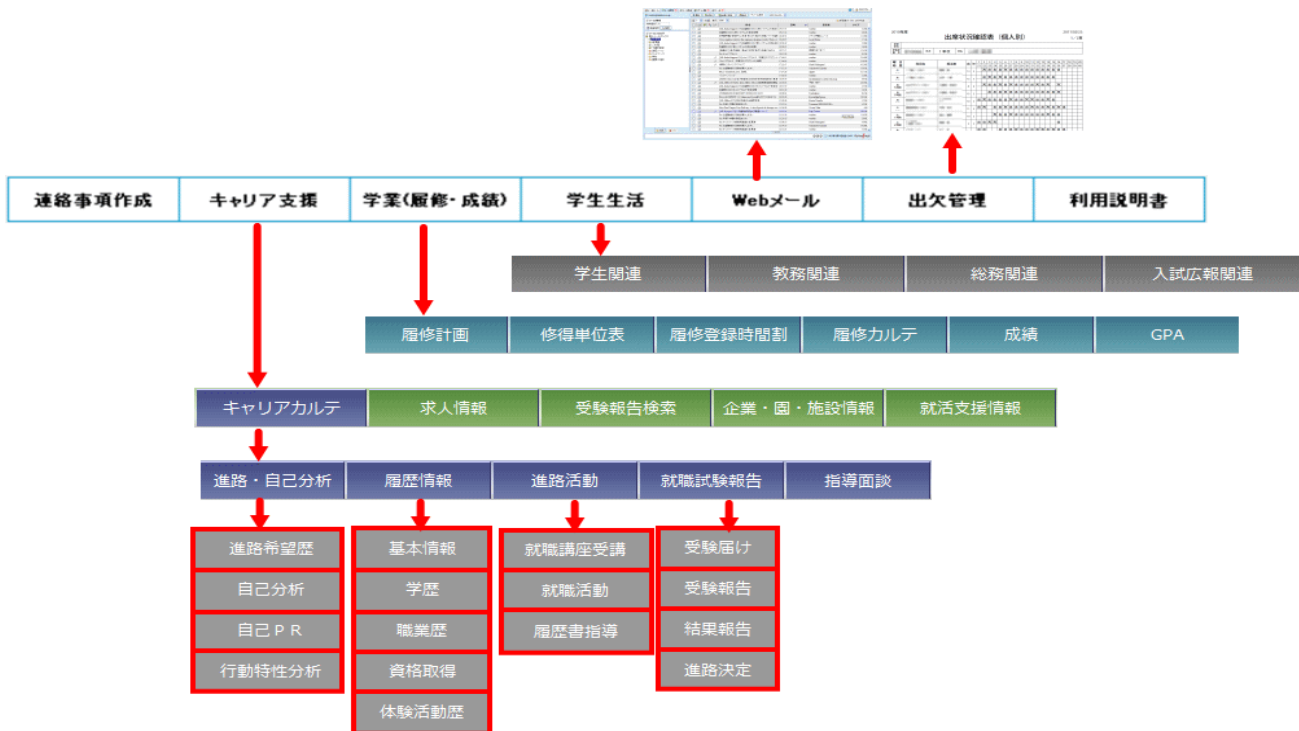
自己点検・評価委員会は、年度毎に本学の教育活動に関する諸々の点検活動に取り組んでいます。  
年度末に実施の学生満足度調査においても課題を把握し改善に繋げています。

NO	質問項目	1年					2年				
		当てはまる	まる やや当ては まる	やや まら ない	やや 当ては まる	ない	当てはまる	まる やや当ては まる	やや まら ない	やや 当ては まる	ない
1	大学での友人との関係に満足していますか。	55%	38%	5%	2%	62%	26%	8%	3%		
2	ボランティアやサークル、地域との交流等に積極的に参加していますか。	14%	22%	26%	37%	20%	19%	21%	40%		
3	今の生活は高校生の時に思い描いていた短大生活ですか。	7%	39%	38%	16%	16%	39%	25%	20%		
4	自ら学生生活を充実しようと努力していますか。	29%	49%	18%	3%	31%	44%	19%	6%		
NO	質問項目	1年				2年					
		満足	やや 満足	やや 不満	不満	満足	やや 満足	やや 不満	不満		
5	食堂のメニューに満足していますか。	31%	45%	19%	5%	35%	39%	20%	5%		
6	コンビニの品揃えに満足していますか。	36%	41%	18%	5%	43%	37%	19%	1%		
7	教育設備・機器(ピアノ・PC等を含めて)に満足していますか。	38%	45%	15%	2%	34%	37%	21%	7%		
8	図書館の蔵書・設備・機器等に満足していますか。	44%	45%	7%	3%	44%	40%	14%	1%		
9	教務課・学生課の対応に満足していますか。	41%	44%	12%	2%	35%	34%	21%	9%		
10	学生便覧やシラバスの内容、構成、読みやすさに満足していますか。	36%	50%	12%	1%	32%	43%	23%	2%		
11	オリエンテーション、ガイダンス等の内容や方法に満足していますか。	25%	58%	13%	3%	34%	44%	19%	2%		
12	保健室やカウンセリング室等、心身の健康に関する支援に満足していますか。	44%	41%	13%	2%	45%	42%	10%	3%		
13	キャリア支援センターの対応、手続きの方法に満足していますか。	40%	50%	7%	2%	49%	36%	12%	2%		
14	駐車場やスクールバス等、大学までのアクセス環境に満足していますか。	21%	40%	28%	10%	31%	35%	22%	12%		
15	ゼミ・アドバイザー担当教員を始め、授業以外の教職員との関わりに満足していますか。	41%	49%	8%	2%	47%	37%	13%	3%		
16	学生自治会の活動内容に満足していますか。	35%	53%	8%	3%	44%	39%	14%	3%		
17	現在の短大生活に満足していますか。	39%	43%	13%	3%	55%	31%	10%	3%		

## (8) 「高短キャンパスネット」の活用

就職支援システム「キャリアカルテ」を核としたWebサイト上のネットワークである「高短キャンパスネット」の学生、教職員双方の積極的な活用により、学生へ種々の学内情報を容易に入手させるとともに、教職員が協働して就職・進学活動を支え、学生生活の満足度の向上、キャリア形成、進路希望の実現を目指しています。本格的運用開始2年目の本年度は、使用上の不具合の改善や使い勝手の良さを追求し、学生、教職員が一層馴染めるようにシステムの改良にも取り組んでいます。

### 高短キャンパスネット メニュー画面



## ○教職員の活用状況

(平成24年度画面別アクセス数の推移)

画面名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
履修登録	299	114	103	48	18	162	412	82	144	66	62	390	1,900
進路希望	841	789	612	629	448	456	670	498	595	497	477	470	6,982
基本情報	946	1,260	424	1,238	640	610	1,158	783	523	442	591	797	9,412
指導面談	956	2,096	1,207	1,179	627	523	871	576	1,266	875	825	532	11,623

## (9) 高大連携の推進

双方の教育力向上に資することを目的として、県内高校との連携の取り組みを進めています。高校生への本学正規授業の開放、高校生を対象とする特別講座の開講や高校の授業・講座・進路ガイダンスへの本学教職員の派遣等を行い、高校生のキャリア形成、進路選択への支援充実の一助としています。本年度は、いなべ総合学園、四日市四郷、白子、相可、津商業の県立5校と高大教育交流協定を締結しました。今後は、協定校との連絡協議会を開催し、高校生・大学生のキャリア育成のあり方等について忌憚のない意見交換の場を設定する予定です。これらの取り組みにより意欲的に本学で学ぼうとする学生の確保、さらには入学前教育の充実に繋げることを目指します。



## ○高校生の本学授業参加

平成24年6月26日(火)14:00~15:30に、三重県立相可高校3年生で「保育実践」の授業を選択している生徒12名が本学を訪問し、図書館多目的ホールでの説明のあと、子ども学科の「子どもの食と栄養」「幼児音楽」「乳児保育」の授業に参加しました。授業の中では、本学の学生との話し合いの機会を持ち、短大生活の理解にも役立てました。



## ○高大教育交流協定の締結

- ・平成25年1月30日(水) いなべ総合学園高校
- ・平成25年2月4日(月) 白子高校
- ・平成25年2月27日(水) 四日市四郷高校
- ・平成25年3月6日(水) 相可高校
- ・平成25年3月26日(火) 津商業高校



## ～地域への社会貢献事業～

### <大学全体>

#### (1) 高田短期大学公開講座

##### ①「意外と知らない絵本のこと～子どもへの読み聞かせにも使える絵本解釈～」

日時 6月23日(土)13:30~15:00

場所 2号館223教室

参加数 22名

受講料 無料

講師 子ども学科 助教 北川 剛司

内容 一般的に良い絵本とされるものの要素を説明し、その後、プロジェクターを使い絵本を実際に写しながら、一場面ごとの解説を行いました。



##### ②「人間発達と福祉問題～子ども、障害者、高齢者～」

日時 6月30日(土)13:30~15:00

場所 1号館121教室

参加者 19名



受講料 無料

講師 人間介護福祉学科 学科長・教授 千草 篤磨

内容 人間の発達段階からみた教育や福祉の意義、近年の日本における福祉政策の動向、国民性によって異なる助け合いへの感じ方の事例など、発達や文化から考える福祉問題を考察しました。

### ③「インターネット活用講座 Twitter入門～インターネットを活用しよう！Twitterって何だ？～」

日時 7月14日(土) 13:00～16:30

場所 3号館PC教室I

参加者 28名

受講料 無料

講師 オフィス人材育成学科 学科長・教授 鷲尾 敦

内容 Twitterについて、仕組みを説明した後、つぶやき方や、検索・フォローの方法、返信や転送、引用の仕方、写真をつけたつぶやき方等を体験しました。



### ④「Excelで管理～簡単な表計算とデータ管理～」

日時 9月8日(土) 10:00～13:00 (1時間の昼休憩あり)

場所 3号館PC教室I

参加者 27名

受講料 無料

講師 オフィス人材育成学科 講師 川喜田 多佳子

内容 Excelがどのようなことに役立つのか、また、数字や文字を入力する際に気をつけることなど、Excelの基本的な知識を説明し、その後Excelの便利な機能を使って実際に計算表の作成を行いました。



## (2) 教員免許状更新講習の開催

新たに文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教員のための免許状更新講習を11月の日曜日の3日間に開催したところ、講習参加者は三重県全域から集い、その数は約40名に及びました。「Mie 保育士人材バンク」受講生約10名を含む。講習後の法令で定められた「実施アンケート」結果では、受講生評価は4段階評価(良い。だいたい良い。あまり十分でない。不十分)のうち、「良い」と「だいたい良い」で94.3%の好評を得ました。



## (3) Mie 保育士人材バンク「takada-jc」

県内の潜在保育士に対する再就職支援及び現役の保育士等へ保育指針を踏まえたスキルアップ研修を目的に昨年度設立しました。今年度は引き続き、平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクトとして、教員免許状更新講習会等に合わせ、登録された保育士等にスキルアップのための研修会を実施しました。

募集案内  
FAX 送信欄 Mie 保育士人材バンク takada-jc 事務局宛  
FAX 059-232-6317  
http://portal.takada-jc.ac.jp/inzal/



10月28日(日)	講座①親子のふれあいあそび	講師：子ども学科講師	小菅 千恵子
	講座②凧づくり	講師：本学非常勤講師	坂井田 茂
11月4日(日)	講座③幼児教育と保育指導法	講師：子ども学科長・教授	山崎 征子
		子ども学科助教	北川 剛司
11月11日(日)	講座④子どもの健康と食育	講師：子ども学科教授	宮崎 つた子
		子ども学科教授	鷲見 裕子
11月18日(日)	講座⑤子どもの教育方法	講師：子ども学科教授	三宅 啓子
		子ども学科助教	柳瀬 慶子

#### (4) みえアカデミックセミナー2012 ～心豊かな人生へのアクセス～

##### ①定期講座

日時	7月28日(土) 13:30～16:00		
会場	三重県総合文化会館1F レセプションルーム		
担当	講演：子ども学科、挨拶：人間介護福祉学科、司会：オフィス人材育成学科		
テーマ	「心豊かな子育てと生活環境」		
日程	13:00	受付開始	
	13:30～13:40	開会挨拶	
	13:40～14:40	講演①「子どもの成長発達と基本的な生活習慣」	子ども学科教授 宮崎 つた子
	14:40～14:50	休憩	
	14:50～15:50	講演②「歌のある生活と子育て」	子ども学科教授 三宅 啓子
	15:50～16:00	質疑応答	
	16:00	終了	

##### 参加者数等

当日は、一般35名、本学教職員7名、計42名が参加、宮崎教授は、子どもの成長発達における一連の流れや一定の原則を踏まえた家庭における子どもとの関わり方と日常の基本的な生活習慣について具体的なお話をいただきました。また、三宅教授からは、時代を超えて伝えたい童謡・唱歌が紹介され、そうした歌の解釈を交えながら、心豊かな生活や子育て環境における歌声の必要性についてお話いただきました。



##### ②移動講座

日時	12月9日(日) 13:30～15:00		
会場	伊賀市上野丸之内500 ハイトピア伊賀		
講師	人間介護福祉学科 准教授 橋本 景子		
演題	「思春期の子どもとの接し方」ー子ども心に寄り添うにはー		
参加費	無料		
参加者	110名		

伊賀市教育委員会の主催により、最も多感な時期である「思春期」の子どもとの接し方について、子育て経験と臨床心理士としてのカウンセリング体験談をもとにお話いただきました。

## (5) 大学サロンみえ

大学サロンみえでは、大学等間の連携や県と大学との連携をいっそう強化するため、県と高等教育機関が年間4回ほど意見交換会を開催しています。

その中で本年は高等教育機関の学生に県内各地域で行なわれる事業に参加を呼びかけ、学生と地域の方がそれぞれの地域課題をテーマに議論を行い、地域作りの理解を深めるきっかけとする交流フォーラムを開催し、課題解決に向けた提案を学生から募集するなど、その実践活動の支援を行いました。

具体的には本学では度会郡玉城町勝田地区の「第2回ぶどうフェスタ」に学生が参加し、ぶどう生産農家や玉城町商工会の方と交流をはかりました。

## <子ども学科>

### (1) コミュニティカレッジ

#### I. 高田短期大学保育者研修

昨年度までの保育セミナーに変わり、Mie保育士人材バンク「takada-jc」と連携して研修会を行いました。

日時 10月28日(日) 10:00~12:00

場所 高田短期大学 育児文化室

内容 Mie保育士人材バンク「takada-jc」の同日講座に同じ

### (2) 平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト(地域における社会貢献事業)

近年、子どもたちが他者(人やもの)にふれあいながら学ぶ体験がどんどん少なくなってきているなかで、土いじりや伝承遊びを通じて、親子や子ども同士または親同士の「つながり」をはかるとともに学生が保育者となるうえでの経験を積む機会とします。

#### I. 親子のためのあそび広場

昨年度に引き続き、地域の親子を対象に、本学敷地内で野菜の栽培を行う「親子でやさい天国」プロジェクトを企画しました。専門の農業指導員に助言をいただきながら、自分で育てた野菜を食し、参加者同士や学生と触れ合う楽しさについての認識を深める目的で行いました。



本年度は、地域の幼稚園・保育園の園児とその保護者24組に参加していただき、個人ファームとしてプランターにキュウリ・トマト・ピーマン・ナスの栽培を行いました。共同ファームには、サツマイモ・ウリ・カボチャを栽培しました。また、かかし作りやあそびひろばの企画も行いました。

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 4月19日(木)           | ボランティア学生第1回打ち合わせ会(1年12名・2年12名)                   |
| 4月20日(金)~5月18日(金)  | 第1回企画の準備   |
| 5月20日(日)           | 第1回「夏野菜とさつまいもの苗植え&あそびひろば」                        |
| 5月31日(木)           | ボランティア学生第2回打ち合わせ会                                |
| 6月1日(金)~7月6日(金)    | 第2回企画の準備   |
| 7月8日(日)            | 第2回「Myかかしを作ろう」                                   |
| 10月5日(金)           | ボランティア学生第3回打ち合わせ会                                |
| 10月8日(月)~11月23日(金) | 第3回企画の準備   |
| 11月25日(日)          | 第3回企画「おもいパーティー&あそびひろば」において、サツマイモ収穫・試食・あそびひろばを実施。 |

## II. 風と遊ぼう (子どもゆめ基金助成事業)

日時 12月2日(日)

場所 高田短期大学 体育館

内容 凧作りと凧揚げ遊び、紙皿で作るエコ車、鳥人間になろう  
(腕に飾りを付け、翼のようにひろげて会場内を走る)

講師 本学非常勤講師 坂井田 茂

参加者 大人23人、子ども29人

参加費 無料



### (3) 潜在保育者の実態に関する調査研究

Mie 保育士人材バンク「takada-jc」設立プロジェクトと連携し、本学卒業生・三重県内の私立幼稚園・保育所への調査を行い、保育職の現状及び職業・職場選択の理由、就業年数、離職理由、復職条件等について明らかにするとともに潜在保育者のニーズの実態把握に取り組むもので、これらについてのアンケート調査を実施し、回収されたデータを基に、その分析結果について日本保育学会および全国保育士養成協議会の研究大会で発表しました。

### (4) あのとつアカデミー家庭教育支援養成講座

つぎのとおり実施いたしました。

回	開催日	内容	担当者
1	6/8(金)	保育における現状と課題	助教 寶来 敬章
2	6/22(金)	子どもの育ちと音、音楽遊び	教授 福西 朋子
3	6/29(金)	子どもの食生活と栄養	教授 鷲見 裕子
4	7/6(金)	子どもと運動遊び	助教 柳瀬 慶子
5	7/13(金)	乳幼児のあそび	講師 小菅千恵子

### (5) 子ども学科年報

発行の趣旨、目的を見直し、学科の広報もできるようリニューアルしました。

### (6) 育児文化研究センターとの連携

育児文化研究センターが行う「子育て応援隊事業」や「地域連携事業」に子ども学科の学生がボランティアとして多数参加するなど綿密に連携を図っています。

## <人間介護福祉学科>

### (1) 開山聖人750回遠忌報恩大法会 「仏教福祉シンポジウム」

御遠忌法会期間中に人間介護福祉学科主催の仏教福祉シンポジウムを開催しました。新築された高田会館ホールに6人の先生をお迎えして、人間介護福祉学科の学生を含め約120名の方が参加され、充実したシンポジウムとなりました。

開催日 4月13日(金)

場所 高田会館ホール

講師 医事評論家 西來武治氏、同朋大学教授 田代俊孝氏、龍谷大学教授 長上深雪氏、種智院大学教授 向井啓二氏、京都文教短期大学教授 安藤和彦氏、高田福祉事業

協会常務理事 高林光暁氏

テーマ 「仏教福祉を考える」

(コーディネーター) 人間介護福祉学科教授 千草 篤磨

(総合司会) 人間介護福祉学科特任教授 金信 昌樹

## (2) コミュニティカレッジ

### I. 介護技術講習会

例年同様、介護福祉士国家試験の実技試験免除のための講習会である「介護技術講習会」を本学介護実習施設において実施しました。受講者は介護業務に3年以上従事した方で、17名が講習を修了しました。

開催日 5月19日(土)、20日(日)、6月2日(土)、3日(日)

指導者 (主任)人間介護福祉学科 講師 織田 紀代子、人間介護福祉学科 准教授 福田 洋子、学生相談室 森 ふみ子、特別養護老人ホーム報徳園 主任 田中 里香氏

## (3) 平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト(学生と地域の協働企画)

### I. 地域や福祉施設との連携・協働によるレクリエーション行事の企画運営

#### ①公民館との連携・協働

公民館受講者の高齢者が人間介護福祉学科の授業に参加し、学生とともにレクリエーションなどを楽しみました。学生は、直接高齢者と関わりながら生きた授業を体験しました。参加した高齢者の方々は、学生とともに歌ったり、踊ったりし、また学生食堂での食事を体験しました。

開催日 第1回:7月11日(水)、第2回:11月21日(水)、第3回:1月30日(水)

場 所 本学介護実習室

参加者 第1回:白子公民館受講者31名、第2回:白子公民館受講者23名、第3回:亀山河崎地区コミュニティセンター受講者26名

#### ②福祉施設との連携・協働

本学学生、教員が特別養護老人ホームなどの福祉施設に赴き、施設の職員と連携・共同して入所されている方のためのレクリエーション行事を行うもので、今年度は1月29日(火)に1年生を中心に特別養護老人ホーム報徳園で実施しました。授業としての実習とは別に、より自由に、またより主体的に施設利用者と関わるができる機会と捉え、教員も積極的に関わりました。

## (4) 「介護の現場」体験ツアー

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業として、特定非営利活動法人全人教育研究所との共催で、介護福祉に関心のある高校生を対象に実際に介護現場を見て、体験するツアーを実施しました。高校生10名と在学学生6名が人間介護福祉学科教員とともに参加し、介護への意識を高めました。

開催日 8月9日(木)

場 所 特別養護老人ホーム安濃聖母の家、特別養護老人ホーム報徳園

指導者 人間介護福祉学科教員、安濃聖母の家職員、報徳園職員

## (5) 介護職のための実践キャリア・アップ講座

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業として、特定非営利活動法人全人教育研究所との共催で、福祉施設の介護職のための介護技術・知識の向上を目的とした研修会を実施しました。

場 所 特別養護老人ホーム報徳園

参加者 介護職員及びその他の施設職員

1回目 開催日時 9月14日(金) 13:30~15:00

- テーマ 「介護現場における接遇マナー」  
 講師 オフィス人材育成学科 准教授 杉浦 礼子  
 参加者 38名  
 2回目 開催日時 10月11日(木) 13:30~15:00  
 テーマ 「看取り介護と医療的ケア」  
 講師 人間介護福祉学科 准教授 福田 洋子  
 参加者 42名  
 3回目 開催日時 11月20日(火) 13:30~15:00  
 テーマ 「介護保険制度の中での特養の役割、介護職員の役割」  
 講師 人間介護福祉学科 教授 山田 亮一  
 参加者 39名  
 4回目 開催日時 12月7日(金) 13:30~15:00  
 テーマ 「今求められる介護技術」  
 講師 人間介護福祉学科 助教 徳山 貴英  
 参加者 23名  
 5回目 開催日時 1月17日(木) 13:30~15:00  
 テーマ 「特別養護老人ホームにおける『尊厳と自立』を考える」  
 講師 人間介護福祉学科 学科長・教授 千草 篤磨  
 参加者 31名



## (6) 人間介護福祉学科年報

学科開設時より毎年発行している「高田短期大学人間介護福祉学科年報」の第7号を10月末に発行し、実習施設をはじめ、主な県内福祉施設、県および各市町社会福祉協議会、県内高等学校等に配布しました。

## <オフィス人材育成学科>

### (1) コミュニティカレッジ

#### I. 「Word2007初級」

この講座は、オフィス人材育成学科2年生の学習の一環として実施される講座で、内容の検討や指導案の作成、パンフレットやテキストの制作、教材作りなど受け入れの準備作業から当日の講師役や援助役を学生が主に行いました。参加者の皆様には、こうした講座の趣旨をご説明したうえで受講いただきましたが、とても満足された様子で、アンケートも好結果でありました。

日時 1月20日(日)

場所 3号館1階PC教室Ⅱ

参加数 パソコン初心者29名

講師・コーディネーター オフィス人材育成学科 講師 川喜田 多佳子

学生講師・スタッフ 「インストラクタ演習」受講学生10名

参加費 無料



講座の始まりの挨拶



講師役の学生の様子

## (2) 平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト（学生と地域の協働企画）

### I. 学生が主体となる高田短期大学オリジナル商品開発プロジェクト

#### 【目的】

本プロジェクトでは、高田短期大学オリジナル商品を開発するプロセスを実践体験することで学習効果を向上させ、主体性、協調性、創造力を養うことが期待されるほか、学外の方々との交流機会を持つことで、社会力を向上させることも狙いとしています。

#### 【活動内容】

- ・ 昨年に引き続き学生が主体となって、高田短期大学オリジナル「MY酒」を製造しました。（製造は、「酒伝」（芸濃町椋本）、実質の販売は、地元酒造販売所が行いました）なお、今年度は、より高田短期大学に近い地元業者と連携し、プロジェクトを推進するため、上記の協力事業所を選定いたしました。
- ・ 日本酒の銘を教育の理念である「やわらか心」とし、商品化するラベルデザインを決定するため、学生が「日本酒ラベルコンテスト」（写真-1）を企画・実施した結果、投票数が最も多かった作品を最優秀賞（写真-2）として、2位、3位の作品を優秀賞（写真-3）として表彰したほか、これら上位3点のラベルデザインを本年度の日本酒ラベルに採用し、100本製造しました。また、販売促進用チラシおよびラベル銘の説明文を作成しました。
- ・ 高田短期大学オリジナル「MY酒」の商品開発プロセス（コンセプトの設計、デザイン、ネーミングなど）に関わることで、机上で学習したことを実践するほか、世代の異なる地域の方々とコラボレーションすることで協調性などを養い、更に価格決定や販売促進についても携わりました。



(写真-1)



(写真-2)

(写真-3)

(写真-3)

### (3) その他

#### I. 学生と地域情報ボランティアによるシニアパソコン教室

生涯学習の場として、津市中央公民館の協力を得ながら、学生と情報ボランティアが協働してシニアパソコン教室を企画運営しています。

この教室は、津市中央公民館の課題講座として市報で津市内の60歳以上の高齢者の参加を募り、本学と津市中央公民館の共催として開催しています。講師役が進行を務め、他のスタッフが受講生の横について指導していくスタイルで、初心者が理解がし易い指導に努めています。

開催日	講座タイトル	メイン講師
6月3日(日)	インターネット入門	一般ボランティア
7月1日(日)	インターネット入門	一般ボランティア
12月2日(日)	年賀状作成講座	学生
3月3日(日)	インターネット入門 第2コース	学生



受講生への支援の様子



講座の様子

## <仏教教育研究センター>

### (1) 研究会の開催

- ・研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

開山聖人750回ご遠忌を記念して、昨年度より高田派中興の祖である真慧上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。

### (2) 仏教教育研究センター講座

#### I. 仏教教育研究センター公開講座 (高田本山教学部 共催)

地域の方々に仏門、仏教、真宗に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山との共催にて、高田会館(旧高田青少年会館)ホールにおいて開講しています。

第1回 日時 9月21日(金) 13:30~15:30

題目 「親鸞聖人の生涯 ~ただ一筋の道~」

講師 高田短期大学特任教授、当研究センター長 金信 昌樹

参加者 70名

第2回 日時 10月19日(金) 13:30~15:30

題目 「親鸞聖人のお人柄を仰ぐ」

講師 高田中・高等学校非常勤講師、当研究センター研究員 安藤 章仁

参加者 56名

第3回 日時 11月 9日(金) 13:30~15:30

題目 「専修寺如来堂本尊・阿弥陀如来立像について」

講師 三重県環境生活部新博物館整備推進プロジェクトチーム主幹、三重県立博物館学芸員 滝川 和也氏

参加者 55名

※いずれも受講料は無料



#### II. 仏教基礎講座(高田本山寄附講座)

昨年度まで4年間実施しました仏教入門講座にかわり、高田本山寄附講座として、本学において開講いたしました。

日時 8月20日(月)~8月24日(金) 8:50~17:50

対象 寺族及び一般

受講料 無料 (但し、テキスト代は実費負担)

教科・講師 「仏教学」 学長、当研究センター研究員 栗原 廣海

「仏教史」 高田短期大学特任教授、当研究センター長 金信 昌樹

「真宗学」 高田中・高等学校教諭、当研究センター研究員 松山 智道

「真宗史」 高田中・高等学校長、当研究センター研究員 梅林 久高

「高田の歴史と法宝物」 真宗高田派本山専修寺宝物館主幹、当研究センター研究員 新 光晴



受講者 51名

### (3) 仏教教育センター蔵書の整備

高田中・高等学校図書館から移管された旧勸学院所蔵図書・智慧光院寄贈図書・高田学会所蔵図書のデータベース化および補修作業を学生の助力を得ながら進めています。

### <育児文化研究センター>

#### (1) 平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト(地域における社会貢献事業)

##### I. 育児文化室 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て・子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は2年目を迎えました。平成24年度も津市を中心に地域の方々にとくさんご利用いただきました。

また、子ども学科の学生も子育てを体験する場としており、8月23日は、仏典童話人形劇団「縁起人」による人形劇「ぶんぶくちゃがま」を披露しました。



##### 1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

日時 毎週月・木曜日 10:00~12:00

場所 1号館育児文化室

延べ利用者数 大人：2,102名、子ども：2,341名

月	開催日	ひろばテーマ	利用者数
4	16・19・23・26	おやこひろばはじまります!	大人：90名 子ども：102名 内新規：15組
5	7・10・14・17・21・24・28・31	お散歩にでかけよう!	大人：220名 子ども：237名 内新規：47組
6	4・7・11・14・18・21・25・28	七夕飾りをつくろう!	大人：235名 子ども：248名 内新規：31組
7	2・5・9・12・19・23・26・30	食べることは大切だね!	大人：202名 子ども：221名 内新規：17組
8	2・6・9・20・23・27	たかたんのおねえさんと遊ぼう!	大人：154名 子ども：172名 内新規：15組
9	3・6・10・13・20・24・27	どんな絵本がおもしろいかな?	大人：235名 子ども：258名 内新規：25組
10	1・4・15・18・22・25・29	歌って遊ぼう!	大人：187名 子ども：234名 内新規：17組
11	1・5・8・12・15・19・22・26・29	お散歩にでかけよう!	大人：212名 子ども：238名 内新規：20組
12	3・6・10・13・17・20	音楽って楽しいね♪	大人：112名 子ども：123名 内新規：6組
1	7・10・17・21・24・28・31	お正月遊びをしよう!	大人：145名 子ども：161名 内新規：10名
2	4・7・14・18・21・25・28	ウキウキリズム遊び!	大人：145名 子ども：161名 内新規：14名
3	4・7・11・14・18・21・25	大きくなったね!	大人：165名 子ども：186名 内新規：13名

##### 2) 日曜日「おやこひろば たかたん」開催

10月21日(日)津市子育て支援事業の一環として、パパが参加できる日曜日におやこひろばを初めて





開催しました。前葉津市長も参加いただき親子16組（28名）の参加がありました。

### 3) 子育て講座

ひろば開催日（月1回）にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しました。

講座日	テーマ	講師	参加者数	備考
5/21(月)	親子で触れ合いあそびを楽しもう。	小菅千恵子 研究員	24組	申込制
6/18(月)	お部屋の中を点検してみよう。	宮崎つた子 研究員	24組	申込制
7/23(月)	親子で楽しむ食生活	鷺見 裕子 研究員	24組	申込制
9/27(木)	親子で絵本を楽しもう。	廣瀬 玲子 研究員	24組	申込制
10/22(月)	親子でラララ♪ふれあいあそび	福西 朋子 研究員	15組	申込制
11/22(木)	身近な素材「新聞紙」で遊ぼう！	太田 和子 研究員	15組	申込制
12/20(木)	親子のためのミニミニコンサート♪	山本 敦子 研究員	21組	申込制
1/24(木)	心をつなぐ絵本のか	岩附 啓子 研究員	15組	申込制
2/28(木)	「親子で楽しむ音楽あそび」 —お母さんといっしょにラッタター—	三宅 啓子 研究員	14組	申込制

### 4) 子育て相談

子育て講座に加え、子育てに関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談事業を予約制で開始し、27件の相談がありました。

### 5) ひろば関係研修会

育児文化室において「乳幼児の救急蘇生」の研修会が開催されました。津北消防署から「子どもの救急蘇生について」また、セコムから「設置AEDの使用方法」について説明がありました。

日時 8月6日（月）13：30～14：30

場所 1号館育児文化室

参加人数 本学教職員・運営スタッフ・地域ボランティア20名



### 6) その他

#### ・運営スタッフミーティング

開放事業「おやこひろば」運営スタッフと運営委員、事務員で構成するミーティングを月1回開催し、ひろばに関する振り返り・課題検討・次回計画等を話し合っています。

#### ・「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。活動紹介はブログ形式で写真もひろば開催毎にアップをしています。

#### ・津市地域支援センターやひろばとの交流や連携を目指し、津市の「子育てひろば交流会」に本学の「おやこひろば たかたん」も参加しています（関連項目V-1）。

## (2) 地域啓発事業

子どもの保護者や保育関係者の方々に参加いただける講演会を2回開催しました。

### ①久保田カヨ子先生講演会

日時：9月23日（日）13:30～15:30

テーマ：「0歳から働きかける久保田式育児法」

講師：久保田カヨ子先生（株）脳研工房代表取締役

参加数：乳幼児の保護者、保育関係者約500名



### ②河崎道夫先生講演会（三重大大学特任教授）

日時：2月24日（日）13:30～15:30

テーマ：「子どもの遊びを豊かに～自然に子どもをいざなう保育を～」

参加数：保育関係者65名



## (3) 研究事業

当センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

### 1) 定例研究会

第32回 7月4日（水）

テーマ：「保育士養成課程における『障害児保育』の諸問題」

話題提供者：千草 篤磨研究員

参加数：15名（学外：6名・学内：9名）

第33回 10月24日（水）開催予定

テーマ：「親子の共育ちを願って」

話題提供者：太田 和子研究員

参加数：18名（学外：6名・学内：12名）

第34回 2月13日（水）開催予定

テーマ：「社会福祉の制度改正と子ども子育てをめぐる状況」

話題提供者：杉本 郁夫研究員

参加数：18名（学外：9名・学内：9名）



### 2) グループ研究会

グループ研究①「津市における子育て支援の現状と課題」年5回開催

グループ研究②「開放事業おやこひろば『たかたん』について」年5回開催

## (4) 学生活動事業

### 1) 子育て応援隊事業

平成24年度はボランティア支援センターと連携を取りながら子育て支援関連の行事や活動をサポートしています。

No	月日	日	時間	行事名	依頼内容	人数	主催団体
1	4月22日	日	8:30~16:00	第35回 松阪こどもまつり	おまつりの進行スタッフ	2	松阪市社会福祉協議会
2	7月7日	土	9:00~16:00	ぐみの木まつり	保育補助・模擬店手伝い	5	ぐみの木ほいくえん まつり部保護者会
3	7月8日	日	9:00~16:00	ぐみの木まつり	保育補助・模擬店手伝い	4	ぐみの木ほいくえん まつり部保護者会
4	7月14日	土	15:00~19:00	高田保育園 夏まつり	夏まつりの準備・運営・後片付け	20	高田保育園 保護者会
5	7月21日	土	17:00~20:00	まつさか幼稚園 納涼大会	ゲームコーナー企画運営・バザー お手伝い	5	まつさか幼稚園
6	7月21日	土	16:00~20:00	第3回 しんまち夏まつり	バルーン その他	13	新町地区自治会連合会
7	7月28日	土	9:00~19:30	みずほの里”夏まつり”	託児所子どものお世話	3	社会福祉法人 斎宮会
8	8月6日~ 11日	月~ 土	9:00~16:00	みずほの里 子ども参観日 週間	託児所子どもの援助	2	社会福祉法人 斎宮会
9	8月24日	金	9:00~11:30	PTA夏季行事	バルーンアート・エプロンシアター 他	0	杉の子特別支援学校 PTA
10	8月25日	土	13:30~15:30	志摩市ファミリー・サポート・センター 交流会	子ども縁日のお手伝い	3	志摩市ファミリーサポートセンター
11	8月26日	日	14:00~21:00	鈴鹿和順学園 夏祭り	施設の方とのふれあい	2	社会福祉法人 和順会
12	9月6日	木	9:30~11:30	津市大里幼稚園 未就園児の遊ぶ 会 さくらんぼクラブ	パネルシアター・人形劇等	11	津市立大里幼稚園
13	11月3日~ 4日	土~ 日	10:00~15:00	元気っ津まつり2012	イベントのお手伝い	114	元気っ津まつりワーキング委員会事務局
14	12月16日	日	10:30~11:30	こばと子ども会”お楽しみ会”	バルーンアート・ツイストバルーン 他	2	こばと子供会
15	2月16日~ 17日	土~ 日	10:00~15:00	第7回子育て応援 わくわくフェスタ	あそびひろばのサポート・こどもス タッフのリーダー役	30	三重県・みえ次世代育成応援ネットワーク

## 2) 仏教教育研究センター連携事業「仏典童話人形劇」

- 第1回 8月23日(木) 10:00~ おやこひろばたかたん  
 第2回 12月22日(土) 10:00~ 高田保育園  
 第3回 1月26日(土) 10:00~ ほうりん保育園  
 第4回 2月11日(月) 10:00~ 第39回みえけん人形劇フ  
 ェスティバル  
 第5回 2月27日(水) 10:00~ 立誠保育園



## (5) 津市委託事業

平成24年度津市委託事業として津市の広場交流会と保護者向け研修会開催、津市の子育ち支援に関する研究プロジェクトの委託を受け以下の事業を行いました。

### 1) 津市ひろば交流会(年4回開催)

- 第1回 日時: 5月17日(木) 18:30~ 場所: ひろば「さくらんぼ」  
 第2回 日時: 8月30日(木) 18:30~ 場所: 子育て支援ひろば「ろまん」  
 第3回 日時: 11月15日(木) 18:30~ 場所: b-カフェ  
 第4回 日時: 2月14日(木) 18:30~ 場所: 一志保健センター

### 2) 津市子育て支援者研修会(年2回開催)

- 第1回 日時: 8月9日(木) 15:00~ 場所: ヤナセクリニック「ふうか」  
 テーマ: 「支援者向けベビーマッサージ」 講師: 柳瀬幸子先生  
 第2回 日時: 3月7日(木) 18:30~ 場所: 本学 大講義室  
 テーマ: 「気になる子どもの発達支援(仮)」 講師: 山川紀子先生

3) 津市母親対象研修会 (年3回開催) 会場は全て高田短期大学

第1回 日時: 10月10日(水) 10:00~ テーマ:「ママのベビーマッサージ」(第1回)

第2回 日時: 10月11日(木) 10:00~ テーマ:「ママのベビーマッサージ」(第2回)

第3回 日時: 12月9日(日) 10:00~ テーマ:「クリスマスの離乳食」

4) 津市父親対象研修会 (年2回開催) 会場は全て高田短期大学

第1回 日時: 12月9日(日) 10:00~ テーマ:「パパのベビーマッサージ」(第1回)

第2回 日時: 12月9日(日) 13:30~ テーマ:「パパのベビーマッサージ」(第2回)

5) 0~2歳児の子育ち支援に関する研究事業(計10回の会議を開催)

0~2歳児の子育ちを中心に保護者と支援者の認識の違いを明らかにする目的で、子どもの基本的生活習慣に関する量的研究と事例研究行いました。

(6) センター便り発行 「いくぶん」第16号(H24.8.1)発行

センター便りを年2回発行致しました。

(7) 地域連携事業

以下の津市や三重県の事業に連携団体として参画しました。

1) 津市子育て・子育て支援会議

津市の「子育て・子育て支援会議」の一環事業で、コアメンバー会議と実委員としてワーキングに参画し、企画・実施・運営に携わりました。今年度は学生114名が参加し、「つながりひろば」にも参加しました。

2) 津市子育て支援システム地域運営協議会(ICT)

第1回 子育てママのホッとひろば

日時: 8月31日(金) 10:00~12:00 場所: 本学

講師: 高田短期大学准教授・橋本景子研究員

第2回 子育てママのホッとひろば

日時: 2月20日(水) 10:00~12:00 場所: 本学

講師: 高田短期大学准教授・橋本景子研究員

3) みえ次世代育成応援ネットワーク運営委員会

第7回「子育て応援! わくわくフェスタ」に学生30名が参加して、大型ペープサート、大型紙芝居、プラバン、バルーンアートを子どもたちと一緒に楽しみました。

日時: 2月16(土)・17日(日) 10:00~16:00 場所: 県営サンアリーナ



## <ボランティア活動支援室>

(1) 平成24年度「高田短期大学教育研究補助事業」プロジェクト（地域における社会貢献事業）

### I. 国際活動を活かした地域まちづくり貢献活動

7年間にわたって支援を続けるタイ北部山岳少数民族の子ども支援プログラムを継続するための学生支援チームづくりと支援学生の資質向上のためのプログラムの推進を行いました。



8月23日から9月1日と、平成25年3月8日から3月17日の2回にわたり、子ども学科の学生6名がタイ北部山岳少数民族村（チェンライ）へ赴き、



現地の保育園・小学校へ応援メッセージカードを渡し、ボランティア活動を行ったほか、高田高校の生活委員会から預かった運動靴を少女訓練センターへ届けました。

また、こうした学生の海外支援活動を地域のまちづくりに活用できるよう市町の公民館でボランティア体験の展示・報告会を行いました。

### II. 東日本大震災被災地復興支援プログラム

三重県が推進するみえ災害ボランティア支援センター事業（みえ発・ボラパックⅡ）に応募し、本学の学科構成、学生の特性とボランティア活動の実績が評価され、選抜されましたので、復興支援活動に13名の学生が参加いたしました。

9月17日から9月20日の4日間、未だ震災の傷が癒えない岩手県下閉伊郡山田町でその爪跡を目の当たりにしながら、仮設の保育園や住宅において、保育活動及び高齢者へのハンドマッサージ、出前カラオケ教室を開催するなどの活動を行いました。

なお、10月に鈴鹿市立白子公民館および学内において活動報告を行いました。



## ～その他の学内行事・事業～

### <仏教行事委員会>

#### 学内仏教行事の実施

- ・ 新入生本山参詣 開催日 4月 4日(水)  
御遠忌法会準備のため、短大講堂にて実施  
講師 学長 栗原 廣海  
参加者 211名
- ・ 御遠忌本山参詣 開催日 4月12日(木) 御遠忌法会期間中 講師 学長 栗原 廣海  
参加者 428名
- ・ 宗祖降誕会 開催日 5月14日(月) 講師 人間介護福祉学科 特任教授 金信 昌樹  
参加者 377名
- ・ 灌 仏 会 開催日 6月18日(月) 講師 子ども学科非常勤講師 清水谷 正尊  
参加者 272名
- ・ 追 弔 会 開催日 10月15日(月) 講師 事務局学生係 佐々木 秀英  
参加者 317名
- ・ 報 恩 講 開催日 12月10日(月) 講師 学長 栗原 廣海  
参加者 314名



### <図書館>

図書館利用者の利便性向上のため、図書館システムを一新しました。新システムでは、インターネットからの蔵書検索、利用状況照会や予約が可能となり、貸出も学生証を提示するだけで済むよう面倒な手続きを省くなど、学習支援のための環境を改善することができました。また、業務面でも、実際の運用方法に合ったシステム構成・設定内容になっているため、安定したシステム運用を実現できるとともに、業務の効率化が図られ、来館者に迅速かつ正確に対応することができます。

また、図書館資料の適正な管理を目的として、不正持ち出しを防止するため、図書館1階入口付近にブック・プロテクション・システムを設置しました。これにより、これまで禁止していた手荷物の持ち込みが可能となり、図書館をより気軽に利用してもらえるように配慮しました。



## <施設設備の整備事業の実績及び進捗状況>

### ① スクールバス運行委託業務

委託会社 (有) ティー・ディー・エス  
委託費用 10,153,740 円  
委託期間 平成24年4月～平成25年3月



### ② 新図書館システム

委託会社 キハラ (株)  
購入費用 9,352,350 円  
納入時期 平成24年8月～平成24年9月

### ③ ファイヤーウォールリプレース (一式)

購入先 (株) システムテクノ  
購入費用 1,239,000 円  
納入時期 平成24年8月

### ④ 学内無線アクセスポイント設置及びA/Cコンセント増設工事

施工会社 (株) システムテクノ  
施工費用 6,050,730 円  
施工時期 平成25年2月



### ⑤ iPad mini 4 6台購入

購入先 リコージャパン (株)  
購入金額 1,439,390 円  
納入時期 平成25年3月



## 高田中学校・高田高等学校<教育研究活動の実績>

### (1) キャリア教育推進事業

生徒が激しい社会の変化に対応していく能力、主体的に自己の進路を選択、決定できる能力、社会人、職業人として自立していくことができるようにする教育であり、それに伴い生徒が進学後の進路選択に有意義な予備知識としてもてるような事業を、地元三重大学、名古屋大学や卒業生の人脈を利用し、高大連携を進めながら、さらには地元企業などに講師派遣を依頼し、実社会における勤労観や職業観が身に付くキャリア教育を実施しました。

また、夏休みを利用して将来の自分の姿を描きつつ、自らが見学希望した就労現場へ、直接出向き体験することにより一層理解を深めることができました。

これからも、高校1年生の早いうちから将来の職業観と結びつけた多方面にわたるキャリア教育を推進していきます。

<進路・職業観を考える講演会>	
5月18日(金)実施(高Ⅱ全員と保護者対象)	
題目 「働くことの意義」	
講師 上田情報ビジネス専門学校 副校長 比田井 和孝氏	
5月23日(水)実施(高Ⅰ・4年を対象)	
題目 「国際協力と価値観」	
講師 外務省国際協力局 吉田 憲正氏	
3月21日(木)実施(高5年生を対象)	
題目 「ようこそ先輩 大学入試に向けて」	
卒業生から直に大学入試の心構え、入試勉強のやり方について座談会	
3月25日(月)実施(中3対象)	
題目 英語の勉強について	
講師 灘中・高等学校 教諭 木村 達哉氏	

上記以外 3年制 8回 進学説明会(進学専門業者及び大学教授)  
6年制 3回 講演会(予備校講師及び民間企業)

### <高4年 校外宿泊学習>

さまざまな大学、企業等100ヶ所程度の実際の現場を見学し、社会人との交流を通じて自己の進路意識を高め、共通の進路希望を持つ友人やクラスメートと一緒に行動することで交友関係をさらに広める事を目的として実施しました。

日 程 平成24年7月22日(日)～24日(火)まで  
2泊3日

場 所 関東方面



22日の夜は、福島大学 白石豊教授による講演を実施しました。

「夢を叶える」のテーマで目標達成させるにはどのようにすればよいかをわかりやすく説いていただきました。



なお、23日は終日生徒自身が興味を持っている分野の先輩・会社等を訪問し、自身の進路方向づけの一助として職業意識の高揚に努め将来の進路選択に生かしました。

## (2) 部活動の推進事業

部活動は仲間づくりの場や健康の増進を図ると共に、学校教育の一環としてより高い技能に挑戦する中で豊かな学校生活を経験し基礎体力の向上、優れた人間形成を目標に取り組む活動です。

また、生涯に亘ってスポーツや趣味に親しみ、幅広い能力や教養を身につけながら自らを律し、他人を思いやる豊かな人間性を培うことを目的としています。

在学期間中という長期の期間にわたり、継続して努力する事は、今後の社会生活においても安定した健全な人間関係に繋がるものと考えられます。

練習成果を競う大会において優秀な成績を収めることで、更なる大きな全国・東海大会への出場という意欲が部活動の大きなモチベーションになっていると考えられます。

活動は主に放課後を利用し、顧問の指導の下、高田高等学校、高田中学校として、全国大会や東海大会に出場することで高田学苑の名を県内外に広めています。

本校はスポーツ推薦制度がない関係上、平均的レベルの中から全国的に通用する技術まで、引きあげるには部指導顧問の並大抵な努力が必要な状況であり課題の一つでもあります。

(クラブ活動所属生徒数)

平成24年5月現在

高等学校	文化部	25部	457名	(男 161名・女 296名)
	運動部	19部	609名	(男 392名・女 217名)
	同好会等	4部	70名	(男 7名・女 63名)
	計		1,136名	
中学校	文化部	15部	181名	(男 86名・女 95名)
	運動部	11部	381名	(男 226名・女 155名)
	文芸部		11名	(男 2名・女 9名)
	クリケット愛好会		7名	(男 7名・女 0名)
	計		580名	

### (活動実績) <高等学校 運動部 全国大会・東海大会出場クラブ>

新体操、卓球、なぎなた、水泳

馬術、陸上競技、剣道、柔道、バドミントン

### <文化部 全国大会・東海大会出場クラブ>

俳句、将棋、放送、文芸、演劇

### (活動実績) <中学校 運動部東海大会出場クラブ>

馬術、なぎなた



## (3) 危機管理教育の取り組み

危機管理教育の一環として防災意識を積極的に持つということは、予測不可能な大地震に対しても、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮し、自他共に生命の安全確保に対応できることを目的としています。

校内不審者の侵入対応及び登下校において緊急事態が発生した場合の対応として、学校危機管理マニュアルに基づき的確な情報把握に努め、随時校内パトロール等を行うなどして対応しました。さらにパソコンや端末記憶装置持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩がないように、教職員に意識の徹底をはかっていると共に、学校関係者への誹謗中傷を早期発見するためトータルにサポートする事業（スクールガーディアン）も昨年度より導入し犯罪防止に努めました。また保護者へのいろいろな情報発信源として「あんしんネット」、「きずなネット」を利用し最新情報を随時的確に提供しました。

＜避難訓練＞ 平成24年9月1日（土）実施

（目的）地震発生時における生徒の安全確保及び、地震発生時の対策に関する検証確認

（要領）想定状況 震度6および津波警報発令

避難の実働訓練 本年は津波警報も発令された関係上、全員が3階以上の階に避難する。概ね15分で避難完了となった。

＜情報体感訓練＞ 平成24年12月3日（月）実施

（気象庁発信による緊急地震通報システムを利用し、生徒へは未発表での体感訓練を実施しいかに身の安全を守ればよいか生徒に指示をする。）

初めての試みであったが、生徒は動揺することなく生徒同士が協力合いながら身の安全を確保する行動がとれました。

#### （4）教職員の資質向上事業（初任者研修、学内研修、中部私学研修、就任10年研修など）

##### ○ 新規採用教員研修の推進

本校独自の取り組みとして新任教員の資質向上と、私学に身を置く者としての自覚を促すことを目的とした学内研修を例年どおり、下記計画表に基づき年間15回実施しました。事務的内容や指導教員から指導方法を学ぶことにより、教職員として確立すべき研修を行うことができました。

また、終了後は校長、教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い翌年度の実施計画案に役立てました。

平成24年度 初任者研修 年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任研OR	4月18日（水） 15:40~16:30	長谷川	4号館会議室	
2	高田の歴史と建学の精神について	4月23日（月） 15:40~16:30	学校長		
3	学校法人の規定について	5月10日（木） 15:40~16:30	河北		
4	教職の実務 （中・高教務関係と危機管理）	5月15日（火） 13:30~14:20	宮崙		
5		6月13日（水） 15:40~16:30	因		
6	人権推進教育	6月22日（金） 15:40~16:30	松山?・瀬古		
7		8月 8日（水） 10:00~10:50			
8	生徒指導と教育相談	8月 8日（水） 11:00~11:50	三井		
9		9月 5日（水） 15:40~16:30	家木		
10	特別支援教育	11月 5日（月） 15:40~16:30	伊藤?		
11		11月14日（水） 15:40~16:30	的場		
12	進路指導	12月 5日（水） 15:40~16:30	大川		
13	コンプライアンス （服務規程と教育法規）	1月16日（水） 15:40~16:30	長谷川		
14		2月13日（水） 15:40~16:30	宮崙		
15	学校自己評価	3月 5日（火） 13:30~14:20	伊藤?		

##### ○ 教員研修の推進

教員の意識向上とスキルアップを目的として様々な教員研修を推進しました。

他の高校等との同時研修会の場で広く知識や入試情報を求め、自己研鑽の機会を求めため、実務経験2年と10年の教員を毎年数人外部研修に参加させ、他の私学教員と交流を図りながらスキルアップに努めました。

また、校内研修において「危機管理講習」、「プレゼンテーション講習」、「キャリア教育」などを実施し、その他大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学により毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべき把握に努めました。

10年経験者研修参加者（本年1人）については、日本私学研究所主催の全国研修に参加し、その研修内容について職員会議等において報告を行うなどし、他の教員とも情報共有することで確実に教員全体の意識向上につながっていき、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の向上を図ってきました。

また、本年は校長等管理職教員が経験年数の少ない教員を中心に授業見学を数回実施し、的確なアドバイスを提供しました。

今後も、積極的に講習会や研修会に参加することにより、新人からベテランまでその資質向上に役立てていくことを目標とした内容で実施していきます。

### （5）きめ細やかな学習指導の推進

綿密な年間計画に基づいた1年間の教科指導の中で、個性豊かで自立した生徒の育成を目指して通常の授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった生徒の進度及び達成度に応じた指導を実施すると共に、担任、教科担任、進路指導部の連携のもと、各人の状況に合わせた個別懇談を実施しました。常にその学年の生徒の学力及び特質に応じたコース及びクラス編成を模索しながらその指導にあたっています。

また、近年全国的に、不登校や、精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、カウンセラーと協力して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、明るく元気な学校作りに取り組んできました。

今後も丁寧な繰り返し学習や、夏期講習においては習熟度に応じた個別指導を行うことにより学習意欲と実力向上に努めていき、生徒全体が楽しく充実した学校生活を送れるよう、きめ細かく生徒把握に努力していきます。

### （6）命の大切さを考える教育の推進事業

毎月の本山参詣を通じて自他共にかげがえのない「命」を尊重し人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し、支え合って生きる重要さに気づかせ、静寂な雰囲気の中で自分自身を見つめ直しさらには反省し冷静に感情の抑制に精進しています。

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」によって、生徒一人ひとりがかけがいのない命を持っていることの大切さを学習しました。

また、法話を聞くことをとおして、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながります。

更には、国の重要文化財の建造物の環境下で先人の伝統技術を知り、その鑑賞を通じて文化財を大切にする精神を養います。

これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方をじっくり養成しています。



## (7) 国際交流事業

(目的)

- ① 国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し友好を深めること。
- ② 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。
- ③ 受け入れ家庭が、生徒と共に学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。

参加生徒においても、ホームステイの関係から家族全体で国際社会に対する目を開いていただくことにより、外国語に対しても興味を抱き卒業後の進路選択に影響を与えた生徒も少なくない状況です。

<オーストラリア交換留学生受け入れ>

受入期間 平成24年9月16日(日)～9月27日(木)

受入校 パレード校12名(男12名) 引率教員2名

セントモニカズ校14名(男3名・女11名)

引率教員2名

本校授業に参加及びホームステイにより異文化を体験し、伊勢、京都、名古屋を訪問し日本文化の素晴らしさを感じ、日本への興味を抱いてもらうことによりさらなる国際交流に貢献できるものと思います。



<オーストラリア交換留学生訪問>

訪問期間 平成25年3月15日(金)～3月29日(金)

参加者 31名(男9名・女22名) 引率教員4名

訪問校の授業参加及びホームステイにより、生徒が今まで経験してきた生活内容の違いに気づき、外国の実態が把握できたことは今後の学校生活においての、有効な体験になりました。



<シンガポール交換留学生訪問>

訪問期間 平成24年8月3日(金)～8月10日(金)

参加者 18名(男5名・女13名) 引率教員3名

新民中学校を訪問し異国の授業を体験、またホームステイにより外国文化を体験したことによりそれぞれの国の文化、社会の尊厳を家族全体で重んじることができました。



<シンガポール交換留学生受け入れ>

受入期間 平成24年11月9日(金)～11月15日(木)

受入数 21名(男8名・女13名) 引率教員2名

本校授業への参加及びホームステイにより、日本の良さを体感してもらい更なる国際交流に貢献できました。

## (8) 自己点検・評価等推進事業

(趣旨)

「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っていきます。

(平成24年度の目標)

基本的に3カ年計画での実施としていますが、継続的な評価を行ったため大幅な見直しではなく、現在の教育目標をより実現する具体的目標、手法としての重点努力目標の見直しを図っていきます。

◇目指す学校像(教育理念)

生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。

◇校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。

◇崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。

◇自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。

<重点努力目標>

人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に沿った行動の育成、授業の充実と学力の向上・錬磨、環境・安全教育の推進、世界に貢献できる人材を育成する。

(点検・評価の日程)	
1 平成24年 4月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
2 平成24年 12月	評価項目の確認と評価方法の決定 (今年度評価項目については、評価結果の継続的推移把握)
3 平成25年3月初旬	評価実施
4 平成25年3月末	集計と分析
5 平成25年4月	職員への結果の公表
6 平成25年5月	評価結果の公表

<総 評>

(高 校)

昨年度までの反省に基づき改善された結果、多くの項目について評価が上昇しました。

しかしながら、今後も継続的に発展させることが重要である。

今後の課題として交通安全指導及び公共の場でのマナー指導が行き届いていない点がある。

(中 学)

授業内容の工夫や補習授業の充実など授業に関する評価は高い。

しかしながら、規範意識が低い為引き続き規範意識の育成、基本的生活習慣の確立等の指導を徹底する必要がある。

## (9) 数理コースの授業概要

在籍者数(平成24年5月1日現在) 3年生 29名 2年生 19名 1年生 23名

数理コースは文理コースより1時間数学、物理の授業時間を多く実施しました。

1・2年は高大連携体制で、生徒の理数系への興味、関心を深めることを目的として、多くの理数系大学と連携し知的研究心を育成しました。

平成24年9月21日(金) 高校I・II年生対象

題 目 「地球温暖化とスノーボール・アース」

講 師 岐阜大学教育学部教授 川上 伸一氏

特に夏休みを利用した校外学習では、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が主催する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）」講座を利用し、次代を担う人材への理数教育の拡大を図るべき授業を実施しました。

夏休み前授業として、1・2年生とも三重大学や豊田工大等の教授等から事前授業を受け実践体験に望みました。

夏休み中の講座（18講座中抜粋）

8月 2日（木）～ 3日（金） 勢水丸伊勢湾海洋調査 1泊2日

8月27日（月）～29日（水） 数学の探究 大学教授による講演

12月以降は三重大学医学部や生物資源学部の研究室を直接訪問し、現場体験を実施し高校生の段階から本格的な実習経験ができることはすばらしく、大いに自信に繋がったと考えられます。

参加生徒のアンケートにおいても約半数以上の生徒が、将来自分にとって必要又は重要と考えている結果が出ました。

講座終了後には事後講座を実施1・2年生合同で成果発表会を実施し、興味関心を深めました。

## （10）教職員海外研修事業

### 1）三重県私学総連合会私学教職員海外研究派遣事業

①派遣教諭 下村 尚

視察先 イギリス

視察期間 平成24年7月26日（木）～8月11日（土）

<視察・研究内容>

イギリスは、王室の存在の大きさ、古いものを大切に作る心が印象に残りました。これからのグローバル化が進む中、生徒達には英語の重要性、世界に目を向ける楽しさ、必要性を伝えることができました。

### 2）三重県私学総連合会私学教職員海外研究派遣事業

②派遣教諭 黒田 昌之

視察先 イタリア

視察期間 平成24年8月24日（金）～8月31日（金）

<視察・研究内容>

理科授業の指導に欠かせないガリレオ等の当時の科学者と宗教との関係を深く理解しようと計画し、現場を体感することができ自分自身の理科教育に対し、確実な裏打ちができ今後ともこの経験を日々の授業の中で生徒達に還元する事ができました。



### 3）高田中・高等学校教職員海外派遣事業

③派遣教諭 稲垣 訓子

視察先 韓国

視察期間 平成24年8月2日（木）～8月25日（土）

<視察・研究内容>

韓国の大学に短期入学し直接文化を体感することにより、今までには発想できなかった内容のイメージがわき、この体験が今後の美術教育において大いに役立ちました。

## （11）人権教育研修の推進

学校・家庭・地域が一体となって人権教育に取り組むことが求められています。

本校においても、定期的に入権教育委員会を開催し、教職員の入権意識向上に努めています。本年も夏期休暇時（8月20日）を利用し教職員及び保護者を対象に学苑本部主催による「入権教育研修」を開催し、教育的な面や医療からの面について専門家による講演を聴講することにより、自分自身を振り返る機会となっており、そのことが広く入権問題に関し有効な行事として取り組んでいます。

また、毎年入権問題について積極的に取り組んでいる地域、組織に出向いて直接体感することで感じ得たことを自ら再認識し、生徒への教育の一環として還元しました。

## （12）生徒募集の推進

（中学校）

いかにして生徒確保を行うか重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、生徒募集を行ってきました。

その事をふまえ、本校では広くマスコミを利用した広報活動や、塾、中学校を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で実施される私立中学校展に出向いて学校のPRに努めました。

特に高田中学校をさらに知っていただくために小学生（4・5年生）を対象とした「学びのひろばIN高田」を開催し、情報発信に努めました。

### ① 平成24年8月25日（土）

テーマ （定員： 40名）

- ・平安王朝の世界へようこそ
- ・プラネタリウム体験
- ・親子で楽しむ「算数マジック」

### ② 平成24年11月10日（土）

テーマ （定員： 200名）

- ・たかだ算数オリンピック
- ・「部活動ってなに？」
- ・～中学校の部活動を体験しよう～



### ③ 平成25年2月17日（日）

テーマ （定員： 40名）

- ・親子で楽しむ英会話
- ・落語から学ぶ古典の世界
- ・楽しい理科実験

○中学入試説明会実施日 平成24年9月17日（月・祝） 363世帯参加

（高等学校）

高等学校の生徒募集に関しては、少子高齢化が進む中、教員が各中学校を訪問し入試関連内容を説明し、より高田の魅力を提供しました。

さらに高田高等学校をよく知ってもらうために、オープンキャンパス（8月18日（土）実施）や個別見学会及び進路相談会を計5回実施し受験生に対し詳細で魅力的な学校生活をPRしています。

また、経済的に苦しい家庭においても高等教育が安心して受けられるよう国の就学支援制度、県の減免制度に加え、さらに高田高等学校独自の助成制度も充実させています。(対象基準は就学支援金加算制度と同基準) 平成25年3月31日現在 助成対象者 136名

### (13) 学校安全・保健計画の推進

学校安全管理の立場から交通ルールの遵守、自転車の安全点検、校内安全点検などを実施すると共に、生徒と教員が街頭登下校指導をするなどマナーアップや安全意識の高揚に努めました。

学校安全管理講演会 平成24年9月28日(金)

題目 「登下校時の身の安全確保の意識向上」 講師 津警察署

また、学校保健の立場から、校医検診や他の各種検査を通じ生徒個々の健康状態を把握し、常に健康管理に努めてきました。新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても積極的な取り組みに努めました。



## <施設整備の整備事業の実績>

### ① 本山側テニスコート用自転車置き場設置工事（整地及び舗装含）

施工業者 ホームプラザ大里  
総事業費 3,638,850円  
施工期間 5月14日～7月13日



### ② 1号館南側駐輪場改修工事

施工業者 株式会社辻工務店  
事業費 12,600,000円  
施工期間 7月22日～8月31日



### ③ 1号館1階通路改修工事

施工業者 株式会社辻工務店  
事業費 2,100,000円  
施工期間 7月22日～8月31日



### ④ O A 教室および選択教室

パソコン・プロジェクター等設置

施工業者 株式会社システムテクノ  
総事業費 11,540,130円  
施工期間 8月1日～8月29日



## 4 財務の概要

### (1) 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。本学苑の資金収支決算総額は45億4,600万円となり、前年度の決算額と比較し1億9,300万円の減額となりました。

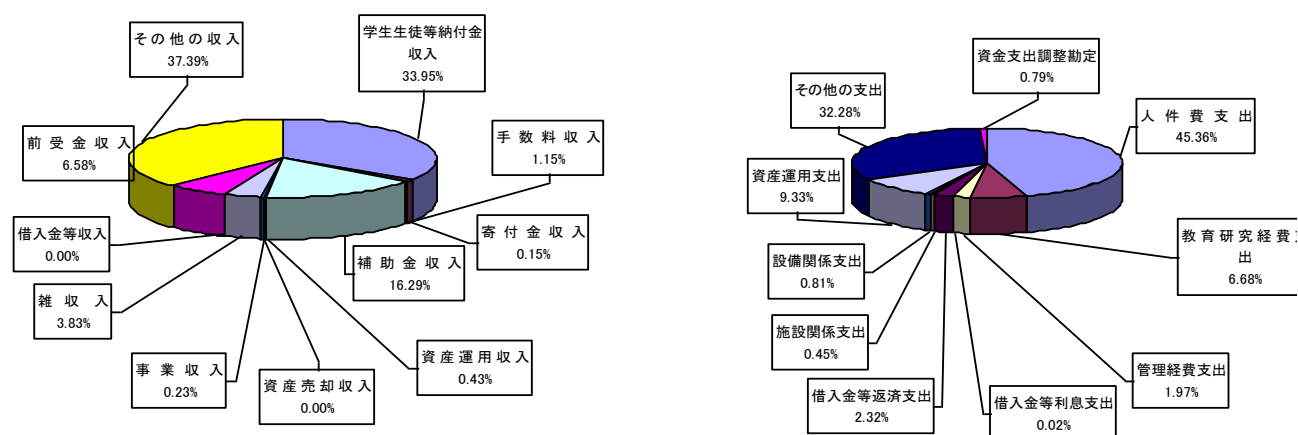
### 平成24年度 資金収支計算書総括

(単位:千円)

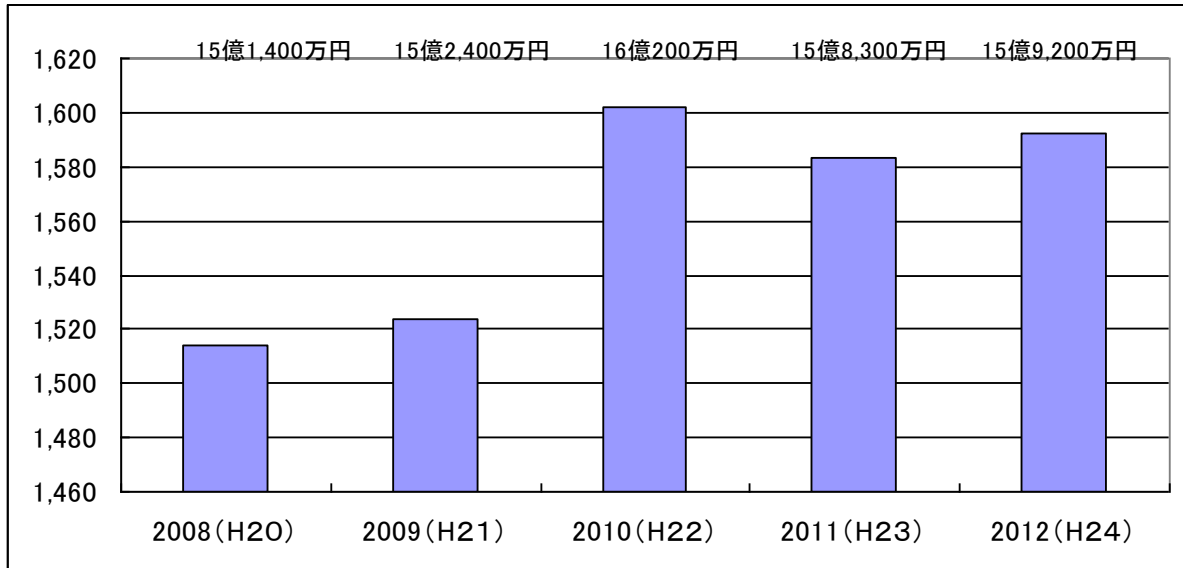
収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,591,959	8,427	人 件 費 支 出	1,952,709	▼ 16,631
手 数 料 収 入	53,812	▼ 93	教 育 研 究 経 費 支 出	287,415	▼ 22,731
寄 付 金 収 入	7,099	▼ 71,033	管 理 経 費 支 出	84,809	▼ 119
補 助 金 収 入	763,728	▼ 25,275	借 入 金 等 利 息 支 出	690	38
資 産 運 用 収 入	20,272	9,306	借 入 金 等 返 済 支 出	100,000	▼ 400,000
資 産 売 却 収 入	163	▼ 151,437	施 設 関 係 支 出	19,294	▼ 174,857
事 業 収 入	10,747	▼ 7,815	設 備 関 係 支 出	34,728	10,661
雑 収 入	179,681	1,074	資 産 運 用 支 出	401,480	153,300
借 入 金 等 収 入	0	▼ 200,000	そ の 他 の 支 出	1,389,593	159,281
前 受 金 収 入	308,428	▼ 9,935	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 34,079	135,630
そ の 他 の 収 入	1,753,217	114,387			
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 490,589	15,236			
<b>当年度収入合計</b>	<b>4,198,517</b>	<b>▼ 317,158</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>4,236,639</b>	<b>▼ 155,428</b>
前年度繰越支払資金	347,400	123,608	次年度繰越支払資金	309,278	▼ 38,122
<b>収入の部合計</b>	<b>4,545,917</b>	<b>▼ 193,550</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>4,545,917</b>	<b>▼ 193,550</b>

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

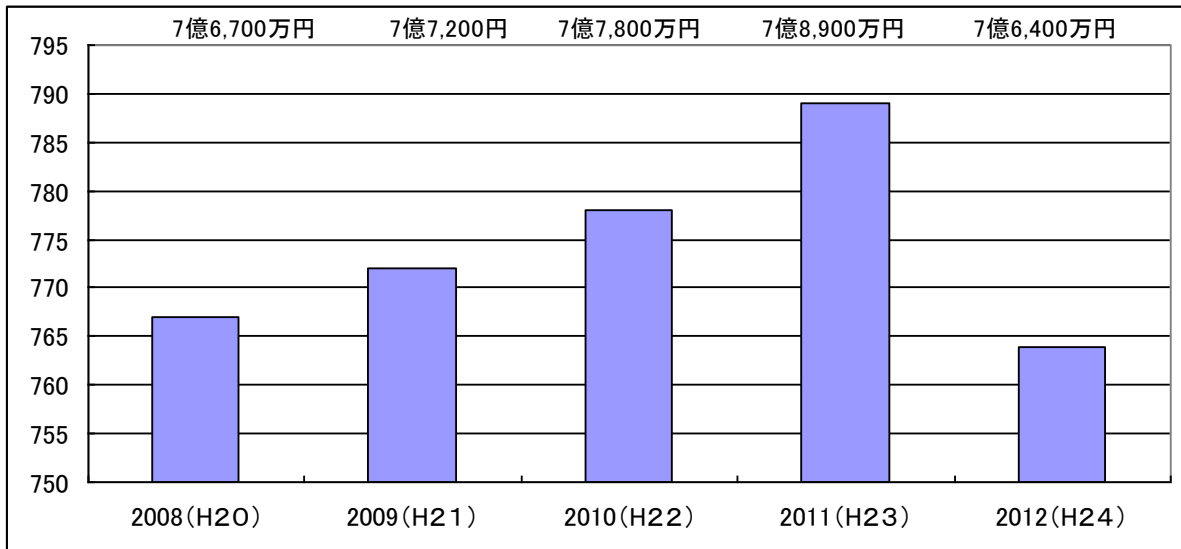
前年比は平成23年度決算との比較です。



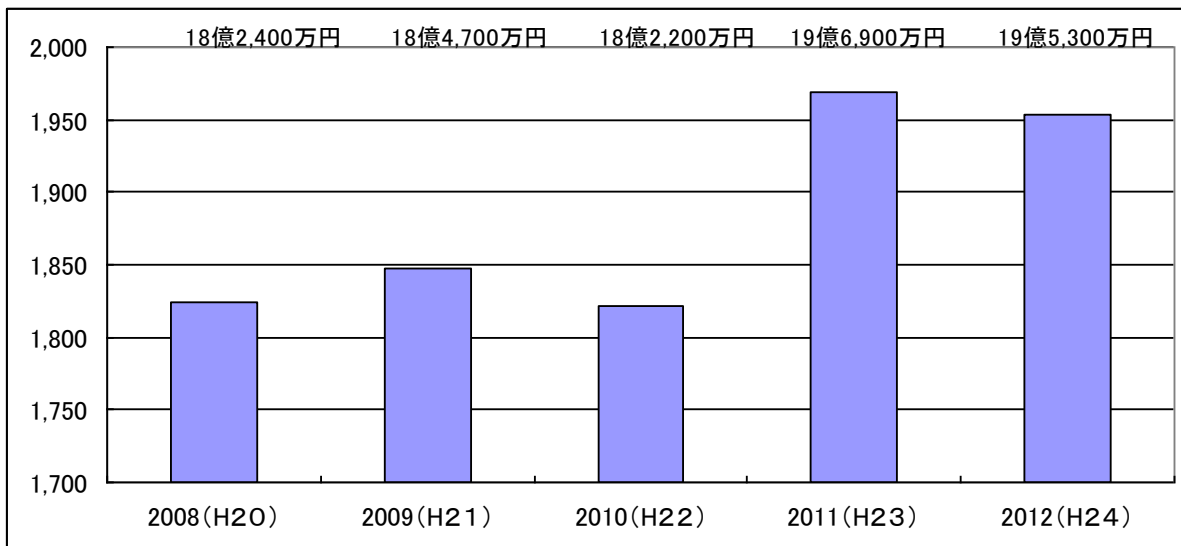
● 学生生徒等納付金収入推移表(2008～2012決算)



● 補助金収入推移表(2008～2012決算)



● 人件費支出推移表(2008～2012決算)



## 平成24年度 資金収支計算書(短期大学)

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	442,938	▼ 37,232	人件費支出	423,183	9,745
手数料収入	9,240	1,348	教育研究経費支出	120,023	▼ 20,460
寄付金収入	600	▼ 69,400	管理経費支出	32,675	1,719
補助金収入	120,718	▼ 8,240	借入金等利息支出	0	0
資産運用収入	3,145	▼ 147	借入金等返済支出	0	0
資産売却収入	163	163	施設関係支出	0	▼ 91,755
事業収入	10,747	▼ 7,815	設備関係支出	13,331	▼ 5,303
雑収入	28,169	18,558	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	178,407	68,529
前受金収入	56,693	▼ 6,210	資金支出調整勘定	△ 9,986	84,755
その他の収入	117,776	▼ 8,525			
資金収入調整勘定	△ 95,283	11,505			
<b>当年度収入合計</b>	<b>694,906</b>	<b>▼ 105,995</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>757,633</b>	<b>47,230</b>
前年度繰越支払資金	163,307	137,182	次年度繰越支払資金	97,905	▼ 65,402
<b>収入の部合計</b>	<b>858,213</b>	<b>31,187</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>855,538</b>	<b>▼ 18,172</b>

## 平成24年度 資金収支計算書(中高等学校)

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,149,021	45,659	人件費支出	1,519,229	▼ 26,189
手数料収入	44,572	▼ 1,441	教育研究経費支出	167,392	▼ 2,271
寄付金収入	2,807	125	管理経費支出	31,635	▼ 1,341
補助金収入	643,010	▼ 17,035	借入金等利息支出	0	0
資産運用収入	3,093	526	借入金等返済支出	0	0
資産売却収入	0	0	施設関係支出	19,294	▼ 83,102
事業収入	0	0	設備関係支出	21,398	15,964
雑収入	150,626	▼ 17,916	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,000,151	75,937
前受金収入	251,735	▼ 3,725	資金支出調整勘定	△ 21,372	50,371
その他の収入	1,106,071	157,114			
資金収入調整勘定	△ 394,807	3,729			
<b>当年度収入合計</b>	<b>2,956,128</b>	<b>167,036</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>2,737,727</b>	<b>29,369</b>
前年度繰越支払資金	144,077	▼ 13,702	次年度繰越支払資金	164,356	20,279
<b>収入の部合計</b>	<b>3,100,205</b>	<b>153,334</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>2,902,083</b>	<b>49,648</b>

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は平成23年度決算との比較です。

平成24年度 補助金一覧表

(単位:千円)

補助金名	当年度	前年度	差異
	①	②	① - ②
<b>短期大学補助金合計</b>	<b>120,718</b>	<b>128,958</b>	<b>△ 8,240</b>
<b>国庫補助金計</b>	<b>119,610</b>	<b>112,010</b>	<b>7,600</b>
私立大学等経常費補助金	111,935	109,885	2,050
私立学校施設整備補助金(ICT補助)	3,745	0	3,745
障害者介助等助成金	360	360	0
特定求職者雇用開発助成金	340	660	△ 320
子どもゆめ基金助成金	305		305
科学研究費補助金	2,925	1,105	1,820
<b>地方公共団体補助金計</b>	<b>1,108</b>	<b>16,948</b>	<b>△ 15,840</b>
安心子ども基金指定保育士養成施設子育て支援活動促進事業費補助金	0	15,000	△ 15,000
結核健康診断予防接種費補助金	71	81	△ 10
キャリア形成訪問指導事業費補助金	1,037	1,048	△ 11
潜在的有資格者等養成支援事業補助金	0	819	△ 819
<b>中・高補助金合計</b>	<b>643,010</b>	<b>660,045</b>	<b>△ 17,035</b>
<b>高等学校補助金計</b>	<b>497,165</b>	<b>500,233</b>	<b>△ 3,068</b>
<b>国庫補助金計</b>	<b>2,598</b>	<b>9,322</b>	<b>△ 6,724</b>
私立学校施設整備費補助金	0	8,662	△ 8,662
私立大学等研究設備整備費等補助金(IT補助)	2,258		2,258
特定求職者雇用開発助成金	340	660	△ 320
<b>地方公共団体補助金計</b>	<b>491,407</b>	<b>487,885</b>	<b>3,522</b>
私立高等学校等振興補助金	483,014	480,272	2,742
授業料減免補助金	5,168	4,489	679
授業料減免補助金(特例措置事業分)	223		223
入学金補助金	855	675	180
人権教育推進事業費補助金	953	1,289	△ 336
結核健康診断予防接種費補助金	212	178	34
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	600	600	0
人権を考える児童・生徒の集い開催事業	82	82	0
<b>市町村補助金計</b>	<b>3,160</b>	<b>3,026</b>	<b>134</b>
私立高等学校振興補助金 津市	2,650	2,555	95
私立高等学校振興補助金 鈴鹿市	371	343	28
津市国際交流事業補助金	100	100	0
スポーツ奨励補助金	39	28	11
<b>中学校補助金計</b>	<b>145,845</b>	<b>159,812</b>	<b>△ 13,967</b>
<b>国庫補助金計</b>	<b>753</b>	<b>2,888</b>	<b>△ 2,135</b>
私立学校施設整備費補助金	0	2,888	△ 2,888
私立大学等研究設備整備費等補助金(IT補助)	753		753
<b>地方公共団体補助金計</b>	<b>145,092</b>	<b>156,924</b>	<b>△ 11,832</b>
私立高等学校等振興補助金	145,010	156,674	△ 11,664
私立学校人権教育推進補助金	0	168	△ 168
人権を考える児童・生徒の集い開催事業	82	82	0
<b>短大、中・高補助金 総計</b>	<b>763,728</b>	<b>789,003</b>	<b>△ 25,275</b>

## (2) 消費収支計算書の概要

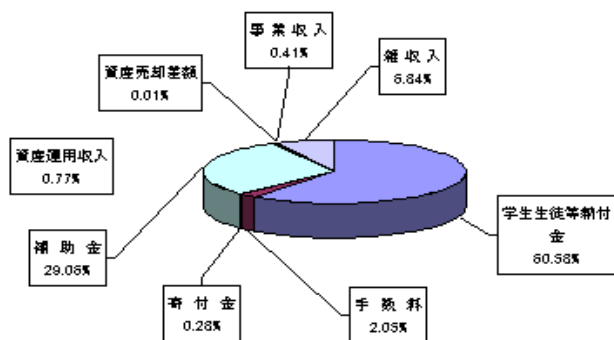
消費収支計算書は、当該会計年度の帰属収入、基本金組入額、消費収入及び消費支出の内容並びに消費収支の均衡状態を示すものです。

### 平成24年度消費収支計算書総括

(単位:千円)

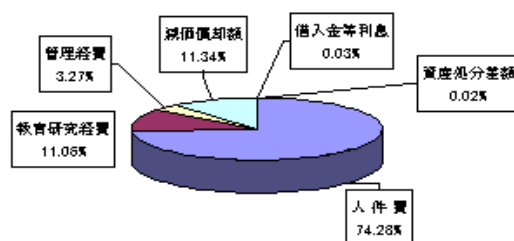
収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金	1,591,959	8,427	人 件 費	1,930,046	▼ 27,600
手 数 料	53,812	▼ 93	教 育 研 究 経 費	287,415	▼ 22,833
寄 付 金	7,444	▼ 71,701	管 理 経 費	84,982	▼ 3,104
補 助 金	763,728	▼ 25,275	減 価 償 却 額	294,516	34,813
資 産 運 用 収 入	20,272	9,306	借 入 金 等 利 息	690	38
資 産 売 却 差 額	163	▼ 1,437	資 産 処 分 差 額	530	▼ 52,500
事 業 収 入	10,746	▼ 7,816			
雑 収 入	179,681	▼ 1,291			
帰属収入合計	2,627,805	▼ 89,880			
基本金組入額	△ 188,629	103,221			
消費収入の部合計	2,439,176	13,341	消費支出の部合計	2,598,179	▼ 71,186
			当年度消費支出超過額	159,003	▼ 84,526
			前年度繰越消費支出超過額	3,468,039	243,530
			翌年度繰越消費支出超過額	3,627,042	159,004

平成24年度帰属収入構成比



帰属収入 26億2,800万円

平成24年度消費支出構成比(対帰属収入比)



消費支出 25億9,800万円

### ○帰属収入

帰属収入とは、学校法人の負債とされない収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、雑収入等が含まれます。

### ○基本金組入額

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するために、維持すべきものとして帰属収入のうちから組入れた金額です。

基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金があります。

第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、平成24年度の組入額は約1億5,700万円となりました。

主な内訳は、短期大学の図書館新システムの導入及び中等高等学校のOA教室パソコンの更新等によるものです。

第2号基本金は、施設設備を取得するために、事前に組入れる金額で、平成24年度はありませんでした。

第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金の額の設定であり、平成24年度の組入額は3,100万円でした。

## 平成24年度 消費収支計算書(短期大学)

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金	442,938	▼ 37,232	人 件 費	409,698	6,380
手 数 料	9,240	1,348	教 育 研 究 経 費	120,023	▼ 20,561
寄 付 金	925	▼ 69,832	管 理 経 費	32,710	1,743
補 助 金	120,718	▼ 8,240	減 価 償 却 額	71,986	1,227
資 産 運 用 収 入	3,145	▼ 147	借 入 金 等 利 息	0	0
資 産 売 却 差 額	163	163	資 産 処 分 差 額	530	240
事 業 収 入	10,747	▼ 7,815			
雑 収 入	28,169	18,558			
帰属収入合計	<b>616,045</b>	<b>▼ 103,197</b>			
基本金組入額	<b>△ 77,811</b>	<b>▼ 77,228</b>			
消費収入の部合計	<b>538,234</b>	<b>▼ 180,425</b>	消費支出の部合計	<b>634,947</b>	<b>▼ 10,971</b>
			当年度消費支出超過額	<b>96,713</b>	23,972
			前年度繰越消費支出超過額	<b>2,219,491</b>	▼ 72,741
			翌年度繰越消費支出超過額	<b>2,316,204</b>	▼ 48,769

## 平成24年度 消費収支計算書(中高等学校)

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金	1,149,021	45,659	人 件 費	1,510,051	▼ 33,794
手 数 料	44,572	▼ 1,441	教 育 研 究 経 費	167,392	▼ 2,273
寄 付 金	2,821	▼ 107	管 理 経 費	31,683	▼ 3,052
補 助 金	643,010	▼ 17,035	減 価 償 却 額	222,121	37,206
資 産 運 用 収 入	3,093	526	借 入 金 等 利 息	0	0
資 産 売 却 差 額	0	0	資 産 処 分 差 額	0	▼ 274
事 業 収 入	0	0			
雑 収 入	150,626	▼ 17,916			
帰属収入合計	<b>1,993,143</b>	<b>9,686</b>			
基本金組入額	<b>△ 79,943</b>	211,324			
消費収入の部合計	<b>1,913,200</b>	<b>221,010</b>	消費支出の部合計	<b>1,931,247</b>	<b>▼ 2,187</b>
			当年度消費支出超過額	<b>18,047</b>	▼ 223,197
			前年度繰越消費支出超過額	<b>498,517</b>	▼ 241,244
			翌年度繰越消費支出超過額	<b>480,470</b>	▼ 18,047

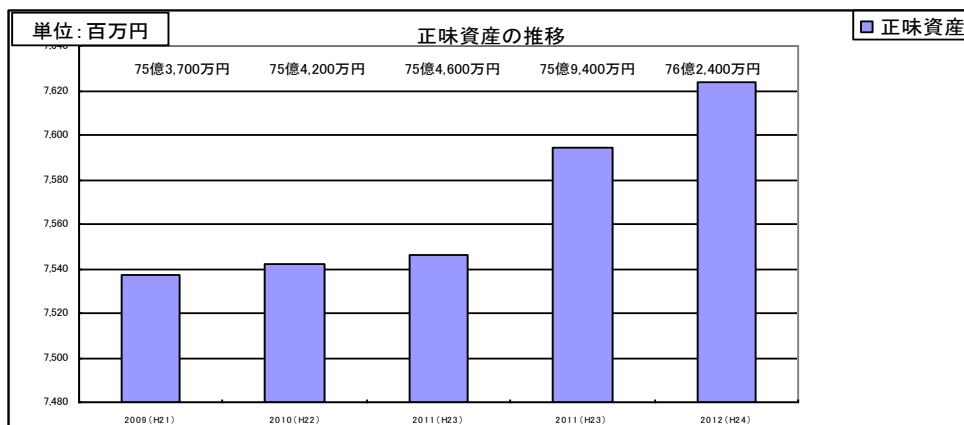
### (3) 貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成25年3月31日現在の財政状態を示しています。

#### 平成24年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,770,288	7,929,517	△ 159,229
有形固定資産	6,878,277	7,118,881	△ 240,604
土地	865,121	861,621	3,500
建物	4,810,511	5,015,844	△ 205,333
構築物	833,415	866,626	△ 33,211
教育研究用機器備品	119,647	127,618	△ 7,971
その他の機器備品	7,453	7,889	△ 436
図書	212,111	209,364	2,747
車輛	100	0	100
学苑林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産	892,011	810,636	81,375
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	902	982	△ 80
有価証券	2,854	2,854	0
差し入れ保証金	350	350	0
退職給与引当特定資産	261,008	261,008	0
施設設備拡充引当特定資産	491,480	332,750	158,730
長期火災保険特定資産	112,478	205,127	△ 92,649
長期前払金	19,395	4,021	15,374
流動資産	541,734	614,016	△ 72,282
現金預金	309,278	347,400	△ 38,122
未収入金	172,225	206,032	△ 33,807
立替金	550	6,289	△ 5,739
修学旅行費預り資産	56,359	50,095	6,264
卒業諸費預り資産	3,150	3,918	△ 768
前払金	172	282	△ 110
<b>資産の部合計</b>	<b>8,312,022</b>	<b>8,543,533</b>	<b>△ 231,511</b>
固定負債	257,370	280,033	△ 22,663
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	257,370	280,033	△ 22,663
流動負債	430,962	669,436	△ 238,474
短期借入金	0	100,000	△ 100,000
未払金	33,798	169,376	△ 135,578
前受金	308,428	318,363	△ 9,935
預り金	29,227	27,683	1,544
修学旅行費預り金	56,359	50,096	6,263
卒業諸費預り金	3,150	3,918	△ 768
<b>負債の部合計</b>	<b>688,332</b>	<b>949,469</b>	<b>△ 261,137</b>
第1号 基本金	11,069,732	10,912,102	157,630
第2号 基本金	0	0	0
第4号 基本金	181,000	150,000	31,000
<b>基本金の部合計</b>	<b>11,250,732</b>	<b>11,062,102</b>	<b>188,630</b>
翌年度繰越消費支出超過額	3,627,042	3,468,038	159,004
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△ 3,627,042</b>	<b>△ 3,468,038</b>	<b>△ 159,004</b>
<b>負債の部、基本金の部、及び消費収支差額</b>	<b>8,312,022</b>	<b>8,543,533</b>	<b>△ 231,511</b>





注記 1. 重要な会計方針

①引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・・・・・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 126,804,829 円の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,021,552,339 円から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

②その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

\*移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当なし

3. 減価償却額の累計額の合計額 **4,216,928,188円**

4. 徴収不能引当金の合計額 **0円**

5. 担保に供されている資産の種類及び額 **0円**

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額 **0円**

7. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

有価証券の時価情報

(単位：円)

種類	勘定科目	当年度(平成25年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの (うち満期保有目的の債券)	有価証券	2,853,674	19,900,515	17,046,841
		(0)	(0)	(0)
	退職給与引当特定資産	48,518,500	65,873,700	17,355,200
		(48,518,500)	(65,873,700)	(17,355,200)
	施設設備拡充引当特定資産	220,000,000	225,950,000	5,950,000
		(0)	(0)	(0)
小計 (うち満期保有目的の債券)		271,372,174 (48,518,500)	311,724,215 (65,873,700)	40,352,041 (17,355,200)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの (うち満期保有目的の債券)	施設設備拡充引当特定資産	60,000,000	59,856,000	△144,000
		(50,000,000)	(50,000,000)	(0)
小計 (うち満期保有目的の債券)		60,000,000 (50,000,000)	59,856,000 (50,000,000)	△144,000 (0)
合計 (うち満期保有目的の債券)		331,372,174 (98,518,500)	371,580,215 (115,873,700)	40,208,041 (17,355,200)

### (4) 財務比率推移表

(単位: %)

分類	区 分		22年度 (短大) [中高]	23年度 (短大) [中高]	24年度 (短大) [中高]	評	23年度 全国平均		分 類
	比 率	算式(×100)							
貸借対照表関係比率	自己資金比率	自己資金 総 資 金	87.2	88.9	91.7	△	88.4		自己資金は充実されているか
	消費収支差額比率	消費収支差額 総 資 金	△ 37.2	△ 40.6	△ 43.6	△	△ 13.6		
	基本金比率	基本金 基本金要組入額	99.2	100.2	100.0	△	97.5		
	固定比率	固定資産 自 己 資 金	109.9	104.4	101.9	▼	96.7		長期資金で固定資産は賅われているか
	固定長期適合率	固定資産 自己資金 + 固定負債	105.8	100.7	98.6	▼	90.4		
	固定資産比率	固定資産 総 資 産	95.8	92.8	93.5	▼	85.5		資産構成はどうなっているか
	流動資産比率	流動資産 総 資 産	4.2	7.2	6.5	△	14.5		
	減価償却比率	減価償却累計額(図書を除く) 減価償却資産取得価額(〃)	35.2	36.3	38.7	~	10.5		
	流動比率	流動資産 流動負債	44.4	91.7	125.7	△	266.5		負債に備える資産が蓄積されているか
	前受金保有率	現金預金 前 受 金	74.6	109.1	100.3	△	407.4		
	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金 退職給与引当金	107.1	93.2	101.4	△	63.1		
	固定負債比率	固定負債 総 資 金	3.4	3.3	3.1	▼	6.2		負債の割合はどうか
	流動負債比率	流動負債 総 資 金	9.5	7.8	5.2	▼	5.4		
	総負債比率	総 負 債 総 資 産	12.8	11.1	8.3	▼	11.6		
負債比率	総 負 債 自 己 資 金	14.7	12.5	9.0	▼	13.1			
消費費収支計算書関係比率	消費支出比率	消費支出 帰属収入	99.8 [97.6] [99.7]	98.2 (89.8) [97.5]	98.9 (103.1) [96.9]	▼	短大	中・高	経営状況はどうか
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	62.2 (70.3) [59.8]	58.3 (66.8) [55.6]	60.6 (71.9) [57.6]	~	60.6	52.0	収入構成はどうなっているか
	補助金比率	補助金 帰属収入	30.2 (19.3) [34.5]	29.0 (17.9) [33.3]	29.1 (19.6) [32.3]	△	24.7	36.3	
	人件費比率	人 件 費 帰属収入	70.5 (65.2) [73.0]	72.0 (56.1) [77.8]	73.4 (66.5) [75.8]	▼	58.5	66.2	支出構成は適切であるか
	教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	25.0 (27.5) [24.4]	20.2 (28.6) [17.3]	21.5 (30.3) [19.0]	△	24.7	25.4	
	管理経費比率	管 理 経 費 帰属収入	4.2 (5.0) [2.3]	4.0 (5.1) [2.3]	3.9 (6.2) [2.2]	▼	9.5	5.1	
	借入金等利率	借入金等利息 帰属収入	(0.2) (0.0) [0.0]	(0.0) (0.0) [0.0]	(0.0) (0.0) [0.0]	▼	0.4	0.5	
	基本金組入率	基本金組入額 帰属収入	16.0	10.7	7.2	△	12.2	10.0	
	人件費依存率	人 件 費 学生生徒等納付金	113.2 (92.6) [121.9]	123.6 (84.0) [139.9]	121.2 (92.5) [131.4]	▼	96.6	127.2	収入と支出のバランスはとれているか
	消費収支比率	消費支出 消費収入	118.9 (98.8) [127.0]	110.0 (89.9) [114.3]	106.5 (118.0) [100.9]	▼	108.7	109.6	

評価指標 △:高い値が良い ▼:低い値が良い ~:どちらともいえない

## (5) 財 産 目 録

(単位:千円)

一、資 産 総 額	8,312,022
内 1. 基 本 財 産	6,848,358
2. 運 用 財 産	1,463,664
二、負 債 総 額	688,332
三、正 味 財 産	7,623,690

項 目	数 量	金 額
(一) 資 産		8,312,022
1. 基 本 財 産		6,848,358
(ア) 土 地	91,429.86 m <sup>2</sup>	865,121
(イ) 建 物	39,650.03 m <sup>2</sup>	4,810,511
(ウ) 構 築 物	190 点	833,415
(エ) 図 書	93,396 冊	212,111
(オ) 教育研究用機器備品	16,750 点	119,647
(カ) その他機器備品	146 点	7,453
(キ) 車 輛	7 台	100
2. 運 用 財 産		1,463,664
(ア) 現金及び預金		309,278
(イ) 修学旅行費預り資産		56,359
(ウ) 卒業諸費預り資産		3,150
(エ) 未 収 入 金		172,225
(オ) 借 地 権	1 点	2,258
(カ) 電 話 加 入 権	15 基	1,286
(キ) 施 設 利 用 権	3 点	902
(ク) 差 し 入 れ 保 証 金		350
(ケ) 有 価 証 券	48,217.00 株	2,854
(コ) 土 地	61,913.00 m <sup>2</sup>	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		261,008
(シ) 長期火災保険特定資産		112,478
(ス) 施設設備拡充引当特定資産		491,480
(セ) 長 期 前 払 金		19,395
(ソ) 前 払 金		172
(タ) 立 替 金		550
(二) 負 債		688,332
1. 固 定 負 債		257,370
(ア) 退職給与引当金		257,370
2. 流 動 負 債		430,962
(ア) 未 払 金		33,798
(イ) 前 受 金		308,428
(ウ) 預 り 金		88,736
(1) 職員源泉等預り金		29,227
(1) 修学旅行費預り金		56,359
(1) 卒業諸費預り金		3,150